

- 一 米国ニ於テ移民制限法制定一件
附 日本人ノ帰化権問題
- 二 米国加州ニ於ケル排日関係一件
 - 一 土地法問題
 - 二 外国語学校取締法及日本字童隔離法問題
 - 三 漁獵法案問題
 - 四 人頭税法問題
- 三 加州排日問題解決ノ為ノ幣原及モリス両大使間非公式協議関係一件
- 四 米国華州ニ於ケル排日土地法関係一件
- 五 米国ニ於ケル排日関係雜件
- 六 日葡通商航海条約締結交渉開始方ノ件
- 七 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雜件
- 八 「カナダ」ニ於ケル本邦移民排斥関係一件
- 九 「オーストラリア」移民関係雜纂
- 一〇 「ペルー」移民関係雜纂
- 一一 「ブラジル」移民関係雜纂
- 一二 「メキシコ」革命動乱関係一件
- 一三 皇太子裕仁親王欧洲諸国訪問一件

(以上上巻)

事項一四 労農露国ノ内情及渉外関係一件

(英国及労農露国両政府間通商協定ヲ含ム)

六五一 一月九日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英国及労農露国間ノ通商開始交渉行惱ノ状況

報告ノ件

第二五号 (一月十日接受)

対露通商々議ハ宣伝禁遏区域ノ提議露国金塊売買価格及対露債權者ノ労農貨物差押問題ノ為行惱ミトナリ Krassin ハ本国政府ト打合セノ為十日当地出発一時帰露スルコトナリタルガ之ヨリ先 Tchitcherin ハ客年十二月三十一日附ヲ以テ交渉遷延ノ責任ハ労農政府ニ在リトノ議會ニ於ケル Robert Horne ノ声明ニ対シ抗議ヲ申入レザルヲ得ズト前提シ英國政府ハ露国「ポーランド」間紛争ヲ口実トシ六七月初協定ヲ実行セズ Kameneff ヲ退去セシメタルガ労農政府ハ今日ト雖モ前記協定ヲ遵守スルモノニシテ政治条項ハ今後兩國政府ノ特別協商ニヨリ之ヲ完全ナラシム可シトノ趣旨ノ書翰ヲ Curzon 卿ニ寄セ同卿ハ一月六日附ヲ以テ回答ヲ為シ先ヅ通商再開交渉遷延ノ責任ハ事実上労農政府ニ存

一四 労農露国ノ内情及渉外関係一件 六五一

ストテ客年一月最高會議ノ対露通商再開ニ関スル決定ヨリ説キ起シ労農政府ノ対「ポーランド」態度 Kameneff ノ内政干渉及対「ポーランド」条件ノ隱匿俘虜送還ノ遷延等ヲ指摘シ通商協約案前文中ニ宣伝及対敵行為禁遏区域ヲ明記スルニ至リシ迄ノ事情ヲ述べタル後右区域ヲ限定セザル一般の禁遏声明ハ紛争ヲ後日ニ貽スモノナリ労農ニシテ善意ナランカ其区域ヲ明定スルハ決シテ困難ニアラザル可シ英國政府トシテハ露国ノ特殊利益区域ニ就キ同様禁遏義務ヲ認ムルニ吝カナラズトナシ最後ニ英國政府ハ労農ガ無益ノ論争ヲ止メ Krassin ニ対シ帰英後直ニ通商協約ニ調印ヲ為スノ権限ヲ与ヘ且兩國誠意ノ表徴及当面ノ經濟改造ノ第一着歩トシテ右協約ガ履行セラルルニ至ルコトヲ希望シテ止マズト結ベリ

然ルニ一方「クラッシン」ハ Manchester Guardian 紙ニ対シ(一)宣伝禁遏区域ノ提議ニ関シテハ労農ハ相互の条件ノ下ニ且ツ総テノ支持条件ガ協定セラルルヲ待ツテ之ヲ受諾

六五三

ス可シト信ズルモ余ハ政治の權能ヲ有セズ(二)英國政府ハ露國貨物差押ニ対スル moratoriumヲ許ス法案提出ヲ拒絕セル爲困難ヲ生ゼルモ協約締結後更ニ英國法廷ニ試験的訴訟ヲ提起シ若シ同法廷ニテ差押權ヲ認ムルニ於テハ本協約廢棄ヲ宣言スルヨリ外ナシ(三)英國政府ハ金塊ノ市価賣買ヲ許サザルモ其輸出入ヲ許可セリト述ベテ悲觀的口吻ヲ漏シタルガ同時ニ独、伊太利、瑞典ノ對露通商ガ有望ナルコトヲ仄メカシ又英露間ニ一億磅ノ合弁会社設立案(五日「タイムス」所載)ハ全然無益ニシテ余ハ之ニ何等關係ヲ有セズト語リタル趣ナリ

六五二 一月十七日

在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

芬蘭外相及參謀總長ノ勞農露國ノ狀勢ニ關スル上田書記官ヘノ談話報告ノ件

第五九号

(一月十九日接受)

「ヘルシングフォルス」上田書記官情報電報要領左ノ通總理外務兩大臣及參謀總長等ニ面会セルガ兩大臣ハ對露關係ニ於テ日本ト芬蘭トノ利害一致セルコトヲ說キ且芬蘭ハ露國ト平和關係ニアルヲ以テ(露芬平和條約ハ客年十一月

關係ニ鑑ミ種々難題ヲ生ズル虞アリ

(二)露國人口ノ八、九割ヲ占ムル農民ハ今後ト雖モ過激派ニシテ農村ニ触ルルコトナキ限り之ニ對シ組織的反抗ヲナスコトナカルベク労働者ハ革命後工場閉鎖ト共ニ農村ニ歸リ政治ニ遠ザカリ一般ニ共產主義ヲ奉ジテ過激派政府ノ官吏トナリタルヲ以テ労働者ガ過激派政府ヲ顛覆スルコト難カルベク又赤軍中ニハ憲兵制度敵ニシテ反乱ノ隙ナク又有産階級ハ過激派政府顛覆ノ勇氣ナシ斯クノ如ク過激派ハ当分倒ルルコトナカルベキモ經濟上何時迄モ戰爭ヲ繼續スル能ハズ從ツテ平和ヲ希望スル所以ナリ波蘭及羅馬尼方面ノ赤軍集中ハ軍隊ノ配置輸送ニ過ギザルベシ「レニン」「トロツキー」ハ經濟狀態ニ鑑ミ一時「ブルジョア」制度ト妥協スルガ如ク見ユルコトアルベキモ邊境國トノ平和ヲ利用シテ西欧ニ於ケル「プロバガンダ」ヲ旺シニシ其目的ヲ達セントスルナルベシ外國ノ兵力干涉ニ依リ露國ノ秩序ヲ恢復スルコトハ見込ナカルベシ

在歐各大使在瑞典公使ヘ郵報セリ

三十一日批准済)露國ニ關スル情報ヲ得ルニモ便利ノ地点ニ付日本代表者ノ駐在ヲ希望セリ

露國ニ關スル外務大臣(一)及參謀總長(二)ノ談話要領(一)過激派ガ露芬條約ヲ実施スルヤ否ヤハ疑問ナリ彼等ガ其ノ邊境諸國ト講和セルハ歐洲諸國ト外交關係ニ入ル迄之等諸國ヲ以テ西欧トノ交通路タラシメントスルニ過ギズシテ永久ニ之ヲ尊重スルノ意ニ非ザル可シ彼等ハ侵略的傾向ト社会革命煽動ノ二重ノ危險アリ露國ヨリ獨立セル邊境諸國ハ此危險ニ對シ一致協力スルヲ要ス客年開催ノ「バルチック」五国会議ハ露國ニ對スル同盟ヲ目的トセルモノナルガ芬蘭ハ「リスアニヤ」「ラトビヤ」「エストニア」三国ガ列國ヨリ承認ヲ得ザル以上之ト同盟ヲ結ブハ軍事的援助ノ義務ヲ負フノミナラズ財政的ニ三国ノ爲戰費調達ノ重荷ヲ負フコトナルヲ以テ右同盟ニ応ズルコト能ハザリシ次第ナリ前記三国ガ列國ヨリ承認ヲ得ルト否トハ芬蘭ニ取リ重大問題ナリ國際的兵力干涉ヲ以テスレバ過激派ヲ顛覆スルコト不可能ニ非ザルベシ只「コルチャック」「デニキン」「ユデニチ」「ウランゲル」ノ如キ帝政時代ノ將軍ヲ以テスルコトハ不可ナリ此干涉ニ独逸ヲ参加セシムルコトハ仏独ノ

六五三 一月十七日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英國政府ガ最後ニ勞農露國代表クラッシンニ交付セル英露通商協約案ニ付報告ノ件

第五九号

(一月十九日接受)

十二日需ニ応シ永井「ワイズ」ヲ訪問シタルニ当方ノ參考ノ爲ナリトテ英國政府ガ最後ニ「クラッシン」ニ交付セル英露通商協約案ヲ手交シ永井ノ質問ニ對シ左ノ要旨ヲ答ヘタリ

一、本協約案前文禁遏區域中ニハ初メ高加索ヲ含ミ居リタルモ勞農政府ヨリ同地方ハ他禁遏區域トハ性質ヲ異ニス

トノ反對アリ之ヲ削除セリ
二、金差押有無ニ關スル test case 有利ニ決スル時ハ勞農ハ金ヲ輸入シ英蘭銀行ニ寄託シ且ツ之ヲ自由ニ再輸出スルコトヲ得但シ(a)銀行寄託六ヶ月以上ニ亘ルトキハ銀行ハ自由ニ公開市場ニテ之ヲ売捌クコトヲ得(b)寄託金ニ關係シ何等信用貸又ハ特別価格ヲ約定スルコトナシトノ取極ハ「クラッシン」之ヲ承諾セリ

三、十九日開催ノ予定ナル首相會議ニテハ對露通商開始問

題ハ上議セラルルコトナカルヘシ何トナレハ「ク」ノ莫斯科着ハ二十一、二日頃ナルヘク從テ露國側ノ回答ハ恐ラク右會議中到着セサルヘキヲ以テナリ云々

右協約案ハ本文十四ヶ条ヨリ成リ前文中ニ勞農カ特ニ小亜細亞、波斯、「アフガニスタン」及印度ニ於テ敵對行為及「プロバガンダ」ヲ禁遏スヘキコトヲ明記シ更ニ本文ト離レテ末尾ニ國債其他一切ノ債權ハ追テ前文掲記ノ正式條約ニ依リ公正ニ処理セラルヘキ旨ノ宣言ヲ追加セリ本文ハ客年往電第八二五号案ヲ整理シ各条ニ亘リ稍々詳細ニ規定セル外左ノ条規ヲ加ヘタリ

一、相互ニ水雷掃海ヲ行フヘキコト

二、英國ハ露國ヨリノ金輸入及其ノ処分等ニ對シ特ニ制限ヲ設クルコトナキコト

三、輸入品ノ強制徵稅ヲナササルコト

四、特許商標等ニ關シテハ正式條約ニテ規定スルコト

五、協約締約後一ヶ年經過スル時ハ何時ニテモ廢棄ノ通告ヲナシ右通告ノ日ヨリ五ヶ月經過スレハ協約ハ失効ス又協約条項及前文条件不履行ノ場合ハ對手方ハ協約上ノ義務ヲ免カル

本毛通商開始方考慮ノ要アル旨稟申ノ件

第二四号

(一月二十七日接受)

過激派ノ將來ニ關シテハ素ヨリ容易ニ判斷ヲ下シ難キモ同派ヲ以テ經濟上ノ困難ト民心ノ離反ノ為早晚必ズ壊滅スルノ運命ヲ有ストノ見解ハ現下ノ狀態ヲ以テスレバ漸次事實ニ遠サカリ來ルモノノ如シ蓋シ同派ハ既ニ反過激派諸軍ヲ破リ波蘭芬蘭其他辺境諸國ト和シ強大ナル軍隊ヲ擁シ四隣ヲ睥睨シ巧妙ナル手段ヲ以テ列國ノ政治家ヲ操縦シ辛辣ナル方法ト臨機応變ノ措置ヲ以テ國民ヲ籠絡シ内ニ不平分子多シト雖モ嚴重ナル探偵組織ヲ以テ之ヲ閉息セシメ外ニ各種ノ反過激派アリト雖モ空論空拳ノミ列國ハ其利害ヲ異ニシ互ニ掣肘シ到底同派ニ對シ一致ノ望ナシ英國トノ通商ハ一頓挫ヲ來シタルモ米國政府ハ過激派代表者ヲ追放セルニ係ラズ会社及商人ノ對露通商開始ヲ許容スル意思アリト伝ヘラレ瑞典政府ノ對露通商ニ關スル態度モ往電第一九号ノ通り對露通商方法攻究中ニテ丁諾兩國ハ自然之ニ倣フニ至ルベク独逸ニ至リテハ其ノ如何ニ露國ト通商開始ニ熱中スルヤハ一月二十一日同國議會ニ於テ獨立社会党ヨリ露國ト外交及經濟上ノ關係ヲ開始センコトヲ政府ニ迫リ吾人ニシ

協定案郵送

在歐米各大使ニ転電セリ

六五四 一月二十一日 在瑞典國烟公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英國及勞農露國間交渉ノ進行狀況ニ關シクラ
ッシンノ新聞記者ニ對スル談話報告ノ件

第一六号

(一月二十三日接受)

「クラッシン」ハ一月十七日当地ニ來リ二十日芬蘭ニ向ヘルガ其当地過激派系新聞記者ニ語リタル所左ノ通り
倫敦ニ於ケル英國当局トノ会商ハ円満ニ行ハレ我ニ對スル從來ノ誤解ヲ除キタルノミナラズ相互ノ讓歩ニ依リ種々ノ問題ニ付妥協ヲ遂ゲタルモ過激主義ノ宣伝問題露國金塊ノ価格及露國ヨリ英國ニ輸出済ミ金塊並商品ノ不可侵ニ關シテハ未ダ妥協ヲ見ルニ至ラズ之等ノ物件ニシテ帝政時代ノ債權者ノ為差押ヘラルル懸念アルニ於テハ通商開始ハ不可能ニシテ協約ヲ結ブモ何等価値ナシ云々

六五五 一月二十六日 在瑞典國烟公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

露國過激派政府ノ地歩安定シツツアルニ付日

テ徹底的ニ露國ヲ援助セハ独逸ハ遠カラズシテ食料品ノ輸入ヲ仰グラ得ベク銅ノ如キハ直ニ輸入スルヲ得ベシ独逸ハ露國ト協同シテ復旧事業ヲ完成セザルベカラズト結論シタルニ對シ外務大臣ハ露國ト平和關係ヲ維持スルハ實際独逸國民將來ノ死活問題ナレドモ目下尋常ノ方法ニテ「ソビエト」露國ト交通スルコトヲ得ズ然リ乍ラ通商條約ノ締結ナクトモ國際法上他ニ規律アル通商ヲ開始スル方法無キニ非ズ政府ハ此ノ方法ニ關シテ常ニ講究シツツアリ余ハ茲ニ確言ス吾人ハ露國民ト共同動作ヲ為スノ必要ヲ痛切ニ感ズルモノナルコトヲ述ベタルニ徴シテモ其一端ヲ知ルヲ得ベシ要スルニ露國側ハ勿論英米仏独及「スカンデナヴィヤ」諸國ハ其程度コソ異ナレ何レモ自國經濟上ノ立場ニ余儀ナクセラレ對露通商ノ開始ヲ切望スルヲ以テ假令仏國ノ不平アリトスルモ近キ將來ニ通商ノ開始ヲ見ルニ到ルベシト思考セラル而シテ通商ノ開始ガ聽テ過激派政府承認ノ階梯トナルハ自然ノ傾向ナルガ如シ帝國政府トシテハ此際上記事實及大勢ノ趨ク所ヲ察シ過激派ノ露國ナル毅然タル事實ヲ(不明)トシ露國內地ノ実情及過激派ノ政策ヲ察シ予メ之カ対策ヲ講ズルコトハ目下ノ急務ナリト思考セラル

六五六 二月二日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

對露態度ニ関スル英仏伊各國上席代表ノ意見

ニ付報告ノ件

第二三八号

(二月四日接受)

去ル二十九日最高會議終ルヤ「ロイド、ジョージ」氏臨機ノ催シトシテ各國上席代表ヲ招キ其ノ旅館「クリーヨン」ニ於テ非公式晚餐會ヲ開ケリ卓上種々談話中特ニ注意スベキハ「ロ」氏ヨリ「ブリアン」氏ニ對シ「ウランゲル」將軍ノ政府ハ仏国内閣之ヲ承認シタル処之ニ関スル閣下ノ意見如何ト問ヒタルニ「ブ」氏ハ右承認ハ全然失策ナリ仏國ハ今其ノ余累ヲ受ケ「ウランゲル」与党亡命者ノ取扱ニ当惑シツツアリト答ヘ伊太利外相ハ曩ニ我國社会黨員四十余名及其後幾組ノ黨員露國ニ渡リタル処彼等ハ執レモ出發当初ヨリ遙ニ保守の傾向ヲ抱キテ帰國シタルハ案外ナリキト述ブルヤ「ロ」氏ハ同様ノ經驗ハ我國ニ於テモ実見セル処ニシテ彼ノ一度足ヲ露國ニ入ルレバ過激思想ニ感染ストノ思想ハ全然誤謬ナルヲ証スルニ足ルト述べ「ブリアン」氏モ亦然リト応シ要スルニ英伊及惹イテ仏國ノ對露態度ハ

セザルベク從ツテ其他ノ國トノ協約モ成功セザルベシ云々尚最近勞農政府外國貿易委員會ノ調査ニ依ルニ目下露國各地ニハ差向キ自國工場ニ必要ナキ価格七千万留ニ当ル輸出原料品アリ勞農政府ハ寺院其他ヨリ金銀ヲ取り去リ現在四億留ノ正貨ヲ有ス最近露國北部中部ハ石炭薪炭金属其ノ他原料ノ不足ノ為工場ハ大半閉鎖シ鐵道ノ交通モ極メテ不規則ナリ「ウクライナ」ニテハ諸所ニ百姓ノ蜂起アリ

六五八 二月十日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英露通商協約案ニ関シチチェリンノ英國外相

宛書翰要旨及デイリ、ヘラルド記事報告ノ

件

第一六五号

(二月十二日接受)

英國政府ノ英露通商協約案(往電第五九号)ニ對シ「チチエリン」ハ左記要旨ノ書翰ヲ「カーゾン」卿ニ送附セル旨五日莫斯科発無線通信七日当地新聞ニ掲載セラル尚 Daily Herald 紙莫科特派員ノ五日發電報ニ依レバ勞農ハ(一)協約前文中ニ英國政府モ亦小亜細亞、波斯、「アフガン」及印度並前露國ヨリ分立セル諸國ニ於テ對勞農敵對

幾分緩和セラルベキカト思ハシメタリ
在歐米各大使ヘ転電セリ

六五七 二月七日 在瑞典國烟公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英露通商交渉等ニ関スルクラッシンノ談話及
露國ノ經濟狀勢ニ付北田書記官ヨリ報告ノ件

第三七号

(二月九日接受)

北田來電 「クラッシン」ノ莫斯科ニ於テ語ル処左ノ通り英露談判ヲ妨グルハ英國ガ印度ノ外小亜細亞「アフガニスタン」波斯ヲ自己ノ專屬の勢力範圍トシ勞農政府ニ對シ個人ノ行動ニモ責任ヲ負ハシメ英國領内ニ移入スル露國財産ノ不可侵ヲ十分保障セザルコトニテ債務問題モ妥協困難ナリ金輸入問題ニ付テハ英國側讓歩シ商業代表者ノ不可侵問題モ円滿解決スベシ英國一般商業界ハ英露協商ニ賛成シ殊ニ同國ニ勢力アル産業組合ハ之ヲ歡迎セリ米國ノ態度ハ新大統領ノ就任ノ後決セラルベキガ加奈陀ハ英露通商成立セバ直チニ之ニ倣フベク米國ハ加奈陀ト競争シ居ルヲ以テ其ノ結果同國モ亦露國ト協定スルニ至ルベキガ若シ勞農政府ガ輸出貨物及貿易資金ヲ多量ニ蒐集シ得ズバ右協約ハ永続

行為及宣傳行為ヲ禁遏スベキコト勞農ニ對スル日本、独逸、波蘭、羅馬尼、洪牙利、チェコ、勃牙利、希臘、「ユーゴスラヴ」ノ敵對行為ヲ(脱)セズ又勞農ノ他國トノ關係ニ干渉ヲ為サザルコト並ニ相互ニ波斯「アフガン」及土耳其ノ獨立及領土保全ヲ尊重スベキコトヲ追加協定スルコト(二)英國法廷ニテ露國金塊貨物ノ差押權ヲ認ムル最終判決ヲ下スニ於テハ協約ハ直チニ自然消滅ニ帰スベキコトヲ規定シ置クコト(三)末文規定ノ前露國政府ノ一般債務処理声明方ニ関スル取極ヲ削除スルコトヲ主張シ居レリト

(左記)

協約一般條項ニ関シテハ「クラッシン」ト英國政府間ニ更ニ交渉ヲ重ヌルニ於テハ解決ヲ見ルニ至ルベキモ協約調印ニ對スル主要障礙ハ(不明)條件ニ存ス依テ露國政府ハ円滿ノ解決ニ達センガ為政治的交渉ヲ為スヲ必要ナリト思考ス

露國政府ガ波斯及小亜細亞ニ軍隊ヲ派遣シ「ボカーラ」ニ反英革命ヲ起シ又印度國境ニ擾乱ヲ起スノ目的ヲ以テ「アフガン」ト協約ヲ締結セリト云フハ何レモ事實無根ナリスル誤解浮説ハ兩國政府ガ隔意ナク熟議ヲ遂ゲ相互ノ責務及

利害ヲ明確ニ定ムルニ非ズンバ之ヲ排除スルヲ得ザルベシ
茲ニ注意ヲ喚起シタキハ英國政府ガ露國ニ對シ協約締結ト
相抵触スル敵對行為ヲ取リツツアルノ一事ナリ波斯ニ於テ
英國ハ露國白軍ノ殘党ニ對シ声援ヲ与ヘ高加索及小亜細亞
ニ於テハ聯合國政府ハ露國及「アゼルバイジャン」ノ安寧
ヲ脅威スルガ如キ行動ヲ取リツツアリ又聯合側外交ノ指揮
アルニアラズンバ「ジョルジア」挑戰政策ヲ取ルコト能ハ
ザリシナルベシ黒海ニテ英仏軍艦ハ露國ニ貨物ヲ運送スル
露國其ノ他ノ船舶ヲ攻撃シツツアリ露國及「ウクライナ」
ニ對スル波蘭ノ戰鬪行為及「ウランゲル」ノ軍事行動ハ聯
合側ノ有力ナル支持ニ起因ス又「ベッサラビヤ」ハ露國及
「ウクライナ」ノ知ラザル間ニ英國及聯合國政府ニ依リ羅
馬ニ併合セラレタリ云々
在歐米各大使ヘ転電セリ

六五九 三月十八日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英露通商協定ノ成立ニ関スルワイズノ談話ニ

付報告ノ件

第三七一号 (三月十九日接受)

英露通商商議ハ十五日「ホーン」「クラッシン」ノ會見ニ
依リ結末ヲ告ケ客年一月來ノ懸案タリシ通商協約ハ往電第
三七二号^(註)ノ通十六日愈々調印セラレタル次第ナルカ右協約
成立ニ関シ「ワイズ」ノ語ル処左ノ通

一、協約ハ批准ヲ經ス直ニ效力ヲ生スルモ議會ノ討議ニ附
セラルヘシ

二、勞農ノ修正案ニハ前文政治条項中日本其他諸國云々ノ
文字アリシモ英國ノ要求ニ依リ削除セリ

三、勞農露國ノ範圍如何ノ問題ハ商議中提議セラレサリシ
モ主トシテ歐露ヲ對手トスルモノニシテ實際上ノ見地ヨリ
西比利亞ニ適用セラルルコトナカルヘシ勞農露國ノ範圍ハ
正式一般平和條約ニ依リ決セラルルノ外ナカルヘシ

四、第五條「オフィシアル、エージェント」ニ関シテハ露
國ハ差當リ「クラッシン」ヲ任命スヘク英國ハ二三週間に
ニ任命スヘシ第四條指定當業者ニ付テハ双方ニ於テ協議ヲ
為シタル上決定セラルヘシ

五、諸外國ノ態度ニ関シテハ伊國ハ遠カラス本協約ト同一
ノモノヲ調印スルニ至ルヘク白國又之ニ倣ヒ米國ハ四五週
間にニ何等カノ形ニ於テ米露間ノ協定ヲ遂クルコトナル

ヘシト思考ス仏國ハ未タ其ノ態度ヲ明ニセス尚英國海外領
土ハ文言上本協約ノ適用外ナルモ何時ニテモ之ニ参加シ得
ヘシ

六、正式一般平和條約交渉開始期ハ目下ノ処不明ナルモ本
通商協約適用ノ結果ヲ見テ何レ開始セラルヘシ
在歐米各大使ヘ転電セリ

註 林大使發外務大臣宛第三七二号ヲ省略ス

六六〇 三月十九日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英露通商協定ニ對スル在歐露西亞人ノ態度ニ

付報告ノ件

第三八八号 (三月二十一日接受)

上田ノ探聞ニ依ルニ露西亞人ハ英國政府ガ内政關係乃至行
掛リ上對露通商協定ニ調印スルニ到ルベシト諒察シ居タル
モ最近「クロンスタット」一揆ノ勃發ヲ初トシ國內到ル所
ニ反「ボルセビキ」運動行ハルトノ報アルニ加ヘ在巴里露
國政治及經濟団体其他一般在露西亞人ガ同運動ニ望ヲ囑
シ直接間接之ヲ支持シツツアルヲ以テ此際英國ハ第一之等
露西亞人ニ憚リ第二前記運動ノ結果明白スル迄口実ヲ設ケ

調印ヲ延期スベシト觀察シ居タル処愈々調印ノ運トナリタ
ル為彼等ハ今更ノ如ク失望スルニ至リタリ先之英國商務大
臣「ホーン」ガ議會ニ於テ本件ニ付其態度ヲ公ニスルニ至
ルヤ在巴里露國政治及實業家團ハ英國ニ警告ヲ与フルコト
ニ決シ運動員ヲ当地ニ派シ三月十四日在巴里露國財政商工
同盟會ハ特ニ本問題ヲ議スル為緊急會議ヲ開キ満場一致ヲ
以テ同盟本部ヨリ英露通商協定反對ノ意ヲ以テ英國首相ニ
警告ヲナシ且一揆民ニ諸般ノ援助ヲ与フル為出来得ベキ丈
ノ犠牲ヲ払フベキヲ商工業者ニ勸告スベキ旨決議シタル趣
ナリ

六六一 三月十九日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英露通商協定調印ト同時ニ英國ハ英國ノ印度
統治ヲ顛覆セントスル勞農政府ノ行動ノ停止
ヲ求ムル書翰ヲクラッシンニ手交ノ件

第三八九号 (三月二十一日接受)

往電第三七二号協約調印ト同時ニ英國ハ左記趣旨ノ書簡ヲ
「クラッシン」ニ手交セル旨發表セラレ

勞農政府東方政策ノ骨子ガ印度ニ於ケル英國ノ統治ヲ顛覆

スルニアルコト同政府ノ公然認ムル所ニシテ現ニ同政府ガ「アフガニスタン」トノ間ニ行ヒツツアル商議ノ主タル要件ガ実ニ同國ヲ通シテ印度ノ治安ヲ犯ス便宜ヲ得ントスルニアルコト英國政府ノ確信スル処ナリト冒頭シ右ニ関スル數種ノ事例ヲ挙げ進ミテ英國政府ハ勞農政府ガ「アフガン」トノ間ニ隣接關係及通商交通ニ関スル尋常ノ取極ヲ為スコトニハ何等異議アルニ非ズト雖モ（露國政府ハ帝政時代ニ於テモ尚「アフガン」ガ其勢力範圍以外ナルコトヲ承認セリト指摘シ）右取極ノ目的ガ就中金礦、軍需品、飛行機ヲ「アフガン」政府ニ無償供与シ其東方國境ニ勞農領事館ヲ設置スルニアルハ同地方ニ何等露國ガ通商其他ノ利益ヲ有セザルニ顧ミ全ク排英ノ手段ナリト見ルノ外ナシト述べ英國政府トシテハ今回ノ通商協定必然ノ結果トシテ斯ノ如キ行動ヲ停止センコトヲ主張スト結ベリ

六六二 三月二十一日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛

英露通商協定条文送付ノ件

附屬書 右条文

附記 英露通商協定和訳文

formal general Peace Treaty between the Governments of these countries by which their economic and political relations shall be regulated in the future that a preliminary Agreement should be arrived at between the Government of the United Kingdom and the Government of the Russian Socialist Federal Soviet Republic, hereinafter referred to as the Russian Soviet Government.

The aforesaid parties have accordingly entered into the present Agreement for the resumption of trade and commerce between the countries.

The present Agreement is subject to the fulfilment of the following conditions, namely:—

- (a) That each party refrains from hostile action or undertakings against the other and from conducting outside of its own borders any official propaganda direct or indirect against the institutions of the British Empire or the Russian Soviet Republic respectively, and more particularly that the Russian Soviet

公第四〇号

(五月二日接受)

大正十年三月二十一日

在英

特命全權大使男爵 林 權助(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

三月十六日調印ノ英露通商条約条文五部別紙及御送付候間御查收相成度候 敬具

(附屬書)

英露通商協定条文

TRADE AGREEMENT BETWEEN HIS BRITANNIC MAJESTY'S GOVERNMENT AND THE GOVERNMENT OF THE RUSSIAN SOCIALIST FEDERAL SOVIET REPUBLIC.

WHEREAS it is desirable in the interests both of Russia and of the United Kingdom that peaceful trade and commerce should be resumed forthwith between these countries, and whereas for this purpose it is necessary pending the conclusion of a

Government refrains from any attempt by military or diplomatic or any other form of action or propaganda to encourage any of the peoples of Asia in any form of hostile action against British interests or the British Empire, especially in India and in the Independent State of Afghanistan. The British Government gives a similar particular undertaking to the Russian Soviet Government in respect of the countries which formed part of the former Russian Empire and which have now become independent.

- (b) That all British subjects in Russia are immediately permitted to return home, and that all Russian citizens in Great Britain or other parts of the British Empire who desire to return to Russia are similarly released.

It is understood that the term "conducting any official propaganda" includes the giving by either party of assistance or encouragement to any propa-

ganda conducted outside its own borders.

The parties undertake to give forthwith all necessary instructions to their agents and to all persons under their authority to conform to the stipulations undertaken above.

I

Both parties agree not to impose or maintain any form of blockade against each other and to remove forthwith all obstacles hitherto placed in the way of the resumption of trade between the United Kingdom and Russia in any commodities which may be legally exported from or imported into their respective territories to or from any other foreign country, and not to exercise any discrimination against such trade, as compared with that carried on with any other foreign country or to place any impediments in the way of banking, credit and financial operations for the purpose of such trade, but subject always to legislation generally applicable in the respective countries. It is understood that

visiting their ports including the facilities usually accorded in respect of coal and water, pilotage, berthing, dry docks, cranes, repairs, warehouses and generally all services, appliances and premises connected with merchant shipping.

Moreover, the British Government undertakes not to take part in, or to support, any measures restricting or hindering, or tending to restrict or hinder, Russian ships from exercising the rights of free navigation of the high seas, straits and navigable waterways, which are enjoyed by ships of other nationalities.

Provided that nothing in this Article shall impair the right of either party to take such precautions as are authorised by their respective laws with regard to the admission of aliens into their territories.

III

The British and other Governments having already

nothing in this Article shall prevent either party from regulating the trade in arms and ammunition under general provisions of law which are applicable to the import of arms and ammunition from, or their export to foreign countries.

Nothing in this Article shall be construed as overriding the provisions of any general International Convention which is binding on either party by which the trade in any particular article is or may be regulated (as for example, the Opium Convention).

II

British and Russian ships, their masters, crews and cargoes shall, in ports of Russia and the United Kingdom respectively, receive in all respects the treatment, privileges, facilities, immunities and protections which are usually accorded by the established practice of commercial nations to foreign merchant ships, their masters, crews and cargoes,

undertaken the clearance of the seas adjacent to their own coasts and also certain parts of the Baltic from mines for the benefit of all nations, the Russian Soviet Government on their part undertake to clear the sea passages to their own ports.

The British Government will give the Russian Soviet Government any information in their power as to the position of mines which will assist them in clearing passages to the ports and shores of Russia.

The Russian Government, like other nations, will give all information to the International Mine Clearance Committee about the areas they have swept and also what areas still remain dangerous. They will also give all information in their possession about the minefields laid down by the late Russian Governments since the outbreak of war in 1914 outside Russian territorial waters, in order to assist in their clearance.

Provided that nothing in this section shall be understood to prevent the Russian Government from taking or require them to disclose any measures they may consider necessary for the protection of their ports.

IV

Each party may nominate such number of its nationals as may be agreed from time to time as being reasonably necessary to enable proper effect to be given to this Agreement, having regard to the conditions under which trade is carried on in its territories, and the other party shall permit such persons to enter its territories, and to sojourn and carry on trade there, provided that either party may restrict the admittance of any such persons into any specified areas, and may refuse admittance to or sojourn in its territories to any individual who is *persona non grata* to itself, or who does not comply with this Agreement or with the conditions precedent

national Telegraph Convention and Regulations and of the Convention and Regulations of the Universal Postal Union respectively. The above balances when due shall be paid in the currency of either party at the option of the receiving party.

Persons admitted into Russia under this Agreement shall be permitted freely to import commodities (except commodities, such as alcoholic liquors, of which both the importation and the manufacture are or may be prohibited in Russia), destined solely for their household use or consumption to an amount reasonably required for such purposes.

V

Either party may appoint one or more official agents to a number to be mutually agreed upon, to reside and exercise their functions in the territories of the other, who shall personally enjoy all the rights and immunities set forth in the preceding Article and also immunity from arrest and search provided

thereto.

Persons admitted in pursuance of this Article into the territories of either party shall, while sojourning therein for purposes of trade, be exempted from all compulsory services whatsoever, whether civil, naval, military or other, and from any contributions whether pecuniary or in kind imposed as an equivalent for personal service and shall have right of egress.

They shall be at liberty to communicate freely by post, telegraph and wireless telegraphy, and to use telegraph codes under the conditions and subject to the regulations laid down in the International Telegraph Convention of St. Petersburg, 1875 (Lisbon Revision of 1908).

Each party undertakes to account for and to pay all balances due to the other in respect of terminal and transit telegrams and in respect of transit letter mails in accordance with the provisions of the Inter-

that either party may refuse to admit any individual as an official agent who is *persona non grata* to itself or may require the other party to withdraw him should it find it necessary to do so on grounds of public interest or security. Such agents shall have access to the authorities of the country in which they reside for the purpose of facilitating the carrying out of this Agreement and of protecting the interests of their nationals.

Official agents shall be at liberty to communicate freely with their own Government and with other official representatives of their Government in other countries by post, by telegraph and wireless telegraphy in cypher and to receive and despatch couriers with sealed bags subject to a limitation of 3 kilograms per week which shall be exempt from examination.

Telegrams and radiotelegrams of official agents shall enjoy any right of priority over private mes-

sages that may be generally accorded to messengers of the official representatives of foreign Governments in the United Kingdom and Russia respectively.

Russian official agents in the United Kingdom shall enjoy the same privileges in respect of exemption from taxation, central or local, as are accorded to the official representatives of other foreign Governments. British official agents in Russia shall enjoy equivalent privileges, which, moreover, shall in no case be less than those accorded to the official agents of any other country.

The official agents shall be the competent authorities to visa the passports of persons seeking admission in pursuance of the preceding Article into the territories of the parties.

VI

Each party undertakes generally to ensure that persons admitted into its territories under the two preceding Articles shall enjoy all protection, rights

and facilities which are necessary to enable them to carry on trade, but subject always to any legislation generally applicable in the respective countries.

VII

Both contracting parties agree simultaneously with the conclusion of the present Trade Agreement to renew exchange of private postal and telegraphic correspondence between both countries as well as despatch and acceptance of wireless messages and parcels by post in accordance with the rules and regulations which were in existence up to 1914.

VIII

Passports, documents of identity, Powers of Attorney and similar documents issued or certified by the competent authorities in either country for the purpose of enabling trade to be carried on in pursuance of this Agreement shall be treated in the other country as if they were issued or certified by the authorities of a recognised foreign Govern-

ment.

IX

The British Government declares that it will not initiate any steps with a view to attach or to take possession of any gold, funds, securities or commodities not being articles identifiable as the property of the British Government which may be exported from Russia in payment for imports or as securities for such payment, or of any movable or immovable property which may be acquired by the Russian Soviet Government within the United Kingdom.

It will not take steps to obtain any special legislation not applicable to other countries against the importation into the United Kingdom of precious metals from Russia whether specie (other than British or Allied) or bullion or manufactures or the storing, analysing, refining, melting, mortgaging or disposing thereof in the United Kingdom, and will not requisition such metals.

X

The Russian Soviet Government undertakes to make no claim to dispose in any way of the funds or other property of the late Imperial and Provisional Russian Governments in the United Kingdom. The British Government gives a corresponding undertaking as regards British Government funds and property in Russia. This Article is not to prejudice the inclusion in the general Treaty referred to in the Preamble of any provision dealing with the subject matter of this Article.

Both parties agree to protect and not to transfer to any claimants pending the conclusion of the aforesaid Treaty any of the above funds or property which may be subject to their control.

XI

Merchandise the produce or manufacture of one country imported into the other in pursuance of this Agreement shall not be subjected therein to com-

pulsory requisition on the part of the Government or of any local authority.

XII

It is agreed that all questions relating to the rights and claims of nationals of either party in respect of Patents, Trade Marks, Designs and Copyrights in the territory of the other party shall be equitably dealt with in the Treaty referred to in the Preamble.

XIII

The present Agreement shall come into force immediately and both parties shall at once take all necessary measures to give effect to it. It shall continue in force unless and until replaced by the Treaty contemplated in the Preamble so long as the conditions laid down both in the Articles of the Agreement and in the Preamble are observed by both sides. Provided that at any time after the expiration of twelve months from the date on which

forthwith.

Provided also that in the event of the infringement by either party at any time of any of the provisions of this Agreement or of the conditions referred to in the Preamble, the other party shall immediately be free from the obligations of the Agreement. Nevertheless it is agreed that before taking any action inconsistent with the Agreement the aggrieved party shall give the other party a reasonable opportunity of furnishing an explanation or remedying the default.

It is mutually agreed that in any of the events contemplated in the above provisos, the parties will afford all necessary facilities for the winding up in accordance with the principles of the Agreement of any transactions already entered into thereunder, and for the withdrawal and egress from their territories of the nationals of the other party and for the withdrawal of their movable property.

the Agreement comes into force either party may give notice to terminate the provisions of the preceding Articles, and on the expiration of six months from the date of such notice those Articles shall terminate accordingly.

Provided also that if as the result of any action in the Courts of the United Kingdom dealing with the attachment or arrest of any gold, funds, securities, property or commodities not being identifiable as the exclusive property of a British subject, committed to the United Kingdom by the Russian Soviet Government or its representatives judgement is delivered by the Court under which such gold, funds, securities, property or commodities are held to be validly attached on account of obligations incurred by the Russian Soviet Government or by any previous Russian Government before the date of the signature of this Agreement, the Russian Soviet Government shall have the right to terminate the Agreement

As from the date when six months' notice of termination shall have been given under this Article, the only new transactions which shall be entered into under the Agreement shall be those which can be completed within the six months. In all other respects the provisions of the Agreement will remain fully in force up to the date of termination.

XIV

This Agreement is drawn up and signed in the English language. But it is agreed that as soon as may be a translation shall be made into the Russian language and agreed between the Parties. Both texts shall then be considered authentic for all purposes. Signed at London, this sixteenth day of March, nineteen hundred and twenty-one.

R. S. HORNE
I. KRASSIN

DECLARATION OF RECOGNITION OF CLAIMS.

At the moment of signature of the preceding Trade

Agreement both parties declare that all claims of either party or of its nationals against the other party in respect of property or rights or in respect of obligations incurred by the existing or former Governments of either country shall be equitably dealt with in the formal general Peace Treaty referred to in the Preamble.

In the meantime and without prejudice to the generality of the above stipulation the Russian Soviet Government declares that it recognises in principle that it is liable to pay compensation to private persons who have supplied goods or services to Russia for which they have not been paid. The detailed mode of discharging this liability shall be regulated by the Treaty referred to in the Preamble.

The British Government hereby makes a corresponding declaration.

It is clearly understood that the above declarations in no way imply that the claims referred to therein

本協約ハ次ノ諸条件ノ履行ヲ条件トス

即チ

(A) 当事国ノ一方ハ他方ニ対シテ敵対行為若クハ企図ヲ為シ又ハ各自国領域外ニ於テ相互ニ英帝国又ハ露西亜国勞農政府ノ制度ニ対シテ直接間接ニ何等公ノ宣伝ヲ為スコトナカルヘク殊ニ勞農政府ハ軍事外交若ハ其他ノ形式ノ行動若ハ宣伝ニ依リ亜細亞ノ諸人民ニ向ヒ殊ニ印度及「アフガニスタン」独立国内ニ於テ英吉利国ノ利益又ハ英帝国ニ対スル如何ナル敵対行為ヲモ奨励スルコトナカルヘシ

英吉利国政府ハ旧露西亜帝国ノ一部ニシテ現ニ独立シタル諸国ニ関シ右ト同様ノ特別ナル約束ヲ露西亜勞農政府ニ与フルモノナリ

(B) 露西亜国ニ於ケル総テノ英吉利国臣民ハ直ニ帰国スルコトヲ許可セラルヘク又英吉利国若ハ英帝国ノ他ノ部分ニ在ル露西亜国人民ニシテ露西亜国ニ帰還センコトヲ欲スルモノハ同様釈放セラルヘシ

「何等公ノ宣伝ヲ為ス」ノ語ハ各当事国カ各自国領域外ニ於テ行ハルル宣伝ニ対シ援助若ハ奨励ヲ与フルコトヲ

will have preferential treatment in the aforesaid Treaty as compared with any other classes of claims which are to be dealt with in that Treaty.

Signed at London, this sixteenth day of March, nineteen hundred and twenty-one.

R. S. HORNE
L. B. KRASSIN

(附 記)

英露通商協定和訳文(註 外務省欧米局第一課作成ノ仮訳文)

英吉利国政府及勞農政府間ノ通商協定

露西亜国及大不列顛愛蘭聯合王国(訳者註 以下英吉利国ト記ス)双方ノ利益ノ為是等兩國間ニ直ニ平和的通商貿易ヲ再開スルコト望マシキヲ以テ又是カ為ニハ是等兩國政府間ニ将来ニ於ケル其經濟上及政治上ノ關係ヲ規定スヘキ正式ノ一般平和条約締結セラルルニ至ル迄英吉利国政府及露西亜国聯合社会主義勞農政府(以下単ニ勞農政府ト称ス)間ニ予備協約ヲ締結スル必要アルヲ以テ上記兩当事国ハ兩國間ノ通商貿易再開ノ目的ヲ以テ此ノ協約ヲ締結スルモノナリ

モ包含スルモノトス

兩当事国ハ直ニ其代表者及其權力ノ下ニ在ル総テノ人々ニ対シ前記諸条項ヲ遵守スルニ必要ナル一切ノ訓令ヲ与フヘキコトヲ約定ス

第一条 兩当事国ハ相互ニ如何ナル形式タルヲ問ハス封鎖ヲ行ヒ若ハ維持セサルコト各自其領域ヨリ他ノ諸外国ニ適法ニ輸出セラレ若ハ他ノ諸外国ヨリ各自ノ領域ニ適法ニ輸入セラルルコトアルヘキ商品ニ就キ英吉利国及露西亜国間ニ於ケル通商ノ再開ニ対シテ從來置カレタル一切ノ障碍ヲ直ニ除去スルコト竝ニ右通商ニ対シ他ノ外国トノ間ニ行ハルル通商ニ比シ差別ヲ行ヒ若ハ右通商ノ目的ヲ以テスル銀行、信用及財政運用ニ対シ何等ノ障碍ヲ設ケサルコトヲ約定ス但シ常ニ各当事国ニ於テ一般ニ適用セラルヘキ法制ノ適用ヲ受クルモノトス本条ノ規定ニハ各当事国カ諸外国ヨリスル兵器彈藥ノ輸入若ハ諸外国ニ対スル兵器彈藥ノ輸出ニ関シ適用セラルヘキ法律ノ一般規定ニ準拠シテ兵器彈藥ノ取引ヲ取締ルコトヲ妨クルコトナシ

本条ノ規定ハ特殊貨物ノ取引ヲ現ニ取締リ若ハ取締ルコ

トアルヘキ各当事國ヲ拘束スル一般國際協約(例ヘハ阿片條約ノ如シ)ノ規定ヲ變更スルモノトシテ解釈セラルルコトナシ

第二条 英吉利及露西亞船舶、其船長、船員及積荷ハ夫々露西亞國及英吉利國ノ港ニ於テ是等ノ港ニ入港スル外國商船、其船長、船員及積荷ニ對シ商業國民ノ既存慣例ニ從ヒ通常供与セラルヘキ取扱、特權、便宜、免除及保護ヲ一切ノ点ニ於テ受クヘク其ノ内ニハ石炭及水、水先案内、投錨、乾船渠、起重機、修理、倉庫竝一般ニ海運ニ關係アル一切ノ勞役、設備及建物ニ關シ通常供与セラルヘキ便宜ヲ含ムモノトス且英吉利國政府ハ露西亞船舶ニ對シ他國船舶カ公海、海峡及可航水路ニ於テ享有スル自由航行權ヲ行使スルヲ制限若ハ妨害シ又ハ制限若ハ妨害スルコトトナルヘキ何等ノ措置ニ加担シ又ハ之ヲ支持セサルヘキコトヲ約定ス但シ本條ノ規定ハ各當事國カ外國人入國ニ關スル各自ノ法規ニ依リ認メラレタル予防措置ヲ為スノ權利ヲ妨クルコトナシ

第三条 英吉利國其他ノ諸國政府ハ萬國民ノ利益ノ為各自國ノ海岸ニ近接スル諸海及波羅的海ノ或部分ニ於テ既ニ

機雷清掃ヲ為シタルヲ以テ露西亞國勞農政府ハ自方ニ於テ其諸港ニ到ル通路ヲ掃海スルコトヲ約定ス

英吉利國政府ハ露西亞ノ諸港及海岸ニ到ル通路ノ掃海上援助トナルヘキ機雷ノ地位ニ關スル其權内ノ一切ノ報道ヲ露西亞國勞農政府ニ与フヘシ

露西亞國政府ハ他ノ諸國ト等シク其既ニ掃海シタル海域竝ニ尚危險ニ屬スル海域ニ關シ一切ノ報道ヲ國際機雷清掃委員會ニ与フヘシ同政府ハ又掃海ヲ援助スル為千九百十四年開戰以來旧露西亞國諸政府ニ依リ露西亞領水外ニ敷設セラレタル水雷敷設区域ニ就キテ有スル一切ノ報道ヲ与フヘシ

但シ本條項ノ為露西亞國政府ハ其諸港ノ保護ノ為ニ必要ナリト思惟スル何等ノ措置ヲ為スコトヲ妨ケラルルコトナク又右措置ヲ開示スルコトヲ要求セラルルモノニ非ス

第四条 各當事國ハ自國領域ニ於ケル通商実行條件ニ鑑ミ本協約ノ效果ヲ全クスル為當然必要ナリトシテ隨時協定セラルヘキ一定數ノ自國々民ヲ指名スルコトヲ得ヘク對手國ハ是等ノ者カ自國領域ニ入り且滞在シテ通商ヲ行フコトヲ許可スルヲ要ス但シ各當事國ハ其ノ或者カ特定ノ

地域ニ入ルコトヲ制限シ且自國ニ取リ「望マシカラサル人物」ナル者又ハ本協約若ハ其ノ前提條件ヲ遵守セサル者ニ對シ自國領域ニ入り若ハ滞在スルコトヲ拒絕スルヲ得本條ニ依リ當事國一方ノ領域ニ入ルコトヲ許サレタル者ハ通商ノ目的ヲ以テ該領域ニ滞在スル間民事、海軍、陸軍若ハ其ノ他ノ一切ノ強制服役ヲ免レ且個人の服役ノ代トシテ課セラルル金錢或ハ物品一切ノ貢納ヲ免ルヘク且出國ノ權利ヲ保有スルモノトス

是等ノ者ハ郵便、電信及無線電信ニ依リ故障ナク通信シ且千八百七十五年聖彼得堡萬國電信條約(千九百八年「リスボン」ニ於テ改訂)ニ規定セラレタル條件及規則ニ遵由シ電信符號ヲ使用スルノ自由ヲ有ス

各當事國ハ萬國電信條約及其施行細則竝萬國郵便條約及其施行細則ノ規定ニ遵ヒ自國ニ宛テタル電信、自國ヲ通過スル電信竝自國ヲ通過スル郵便物ニ關シ對手國ニ負フ一切ノ殘余額ヲ計算シ且支払フヘキコトヲ約定ス右殘余額ハ其支払ノ期限ニ至ル時ハ之ヲ受領スヘキ當事國ノ選択ニ從ヒ當事國中何レカノ國ノ通貨ヲ以テ支払フコトヲ要ス

本協約ニ依リ露西亞國ニ入ルコトヲ許サレタル者ハ専ラ家事ノ為ニ使用若ハ消費セラルヘキ商品(露西亞國ニ於テ輸入及製造共ニ禁止セラレ若ハ禁止セラルルコトアルヘキ含酒精飲料ノ如キ品物ヲ除ク)ヲ右ノ目的ノ為當然必要ナル數量ヲ限り自由ニ露西亞國ニ輸入スルコトヲ得

第五条 各當事國ハ一人若ハ其以上相互ニ協定スヘキ一定數ノ正式代表者ヲ任命シ對手國領域内ニ住居シ其ノ職權ヲ行ハシムルコトヲ得右正式代表者ハ前條ニ規定スル一切ノ權利及免除並逮捕及搜索ニ關スル免除ヲ自ラ享有ス但シ各當事國ハ自國ニ取リ「望マシカラサル人物」ナル一個人カ正式代表者トシテ入國スルコトヲ拒絕シ又ハ公共ノ利益若ハ安寧ノ為必要ト認ムル場合ニハ對手國ニ對シ上記ノ者ノ召還ヲ求ムルコトヲ得前記代表者ハ本協約ノ実施ヲ容易ナラシメ且自國々民ノ利益ヲ保護スル目的ヲ以テ自己ノ居住スル國ノ官憲ト接觸スルコトヲ得

正式代表者ハ郵便ニ依リ又ハ暗号電信若ハ暗号無線電信ニ依リ本國政府及他國ニ於ケル自國政府ノ他ノ正式代表者ト故障ナク通信シ及毎週三基瓦ヲ限り封印ヲ施セル無検査行囊ヲ携帯スル特使ヲ發受スルコトヲ得

正式代表者ノ電信及無線電信ハ英吉利國及露西亞國ニ於テ一般ニ外國政府代表者ノ通信ニ供与セラルコトアルヘキ私報ニ対スル優先權ヲ享有ス

英吉利國ニ於ケル露西亞國正式代表者ハ中央又ハ地方課税ノ免除ニ関シ他ノ外國政府代表者ニ供与セラルト同一ノ特權ヲ享有ス露西亞國ニ於ケル英吉利國正式代表者ハ之ト同様ノ特權ヲ享受シ且右特權ハ如何ナル場合ニ於テモ他ノ外國ノ正式代表者ニ供与セラルモノヨリ劣ルコトヲ得サルモノトス

正式代表者ハ前条ニ依リ各当事國ノ領域ニ入ルコトヲ求ムル者ノ旅券ヲ査証スヘキ權限ヲ有スル官憲トス

第六条 各当事國ハ前二条ニ依リ自國ノ領域ニ入ルコトヲ許サレタル者カ通商ヲ行フニ必要ナル一切ノ保護、權利及便益ヲ享有シ得ルコトヲ一般ニ確保スヘキコトヲ約定ス但シ各自國內ニ於テ一般ニ適用サルル法制ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七条 兩締約國ハ本通商協約ノ締結ト同時ニ千九百十四年ニ至ル迄ニ現存シタル規約及細則ニ從ヒ兩國間ノ郵便及電信ニ依ル私信私報ノ交換竝無線電信小包郵便ノ發受

第十条 露西亞國勞農政府ハ英吉利國ニ於ケル前露西亞國帝國政府及露西亞臨時諸政府ノ公債若ハ其他ノ財産ヲ何等カノ方法ニ依リ処分スルノ要求ヲ提起セサルコトヲ約定ス英吉利國政府ハ露西亞國ニ於ケル英吉利國政府ノ公債及財産ニ関シ同様ノ約諾ヲ為スモノトス本条ハ本協約前文ニ掲クル一般條約中ニ本條規定ノ事項ヲ定ムル條項ヲ挿入スルコトヲ妨ケス

兩当事國ハ前記條約ノ締結ニ至ル迄其管理ノ下ニ屬スルコトアルヘキ上記ノ公債若ハ財産ヲ保護シ且如何ナル請求者ニ対シテモ之ヲ引渡ササルヘキコトヲ約定ス

第十一条 本協約ニ從ヒ他國ニ輸入シタル一國ノ商品、生産品若ハ製造品ハ政府若ハ地方官憲ニ依リ強制徵收ヲ受クルコトナシ

第十二条 当事國ノ一方ノ領域ニ於ケル特許、商標、意匠及著作權ニ關スル他ノ一方ノ國民ノ權利及請求ニ關聯スル一切ノ問題ハ本協約前文ニ掲クル條約ニ於テ衡平ニ之ヲ処理スヘキコトヲ約定ス

第十三条 本協約ハ即時效力ヲ發生シ兩当事國ハ直ニ其実施ニ必要ナル一切ノ措置ヲ為スヘシ本協約ハ兩当事國ニ

ヲ再開スルコトヲ約定ス

第八条 本協約ニ抛リ通商ヲ行フコトヲ得セシムル目的ヲ以テ各当事國ノ当該官憲カ發給シ又ハ証明シタル旅券、身元證明書、委任狀及之ト類似ノ書類ハ對手國ニ於テハ既ニ承認セラレタル外國政府ノ官憲ノ發給シ又ハ証明シタルモノト同様ニ取扱ハルヘキモノトス

第九条 英吉利國政府ハ同國政府ノ財産タルコトヲ証明シ得ルニアラサル限り輸入ニ対スル支払若ハ右支払ニ対スル担保トシテ露西亞國ヨリ輸出スルコトアルヘキ金、公債、有価証券若ハ商品ヲ差押ヘ若ハ占有シ又ハ英吉利國內ニ於テ露西亞國勞農政府ノ取得スルコトアルヘキ動産若ハ不動産ヲ差押ヘ若ハ占有スルノ意思ヲ以テ何等処置ヲ執ラサルヘキコトヲ宣言ス

正金（英吉利國若ハ聯合國ノ正金ヲ除ク）地金若ハ製造品タルヲ問ハス貴金屬ヲ露西亞國ヨリ英吉利國ニ輸入シ又ハ英吉利國內ニ於テ之ヲ貯藏シ分解シ精煉シ融解シ質入若ハ処分スルコトニ対シ他ノ諸國ニ適用セサル特別法制ヲ制定スルノ措置ヲ執ルコトナク又右金屬ヲ徵發スルコトナカルヘシ

於テ本協約ノ各條項及前文ノ規定スル條件ヲ遵守スル限り前文ノ予見スル條約ニ依リ代ラルル迄其ノ效力ヲ存続ス但シ各当事國ハ本協約ノ效力發生ノ日附後十二箇月經過スル時ハ何時ニテモ前記各條項ノ規定ヲ終止セシムヘキ通告ヲ發スルコトヲ得ヘク右通告ノ日ヨリ六箇月經過シタル時ヲ以テ当該條項ハ終止スヘキモノトス

但シ露西亞國勞農政府若ハ其代表者ニ依リ英吉利國ニ仕向ケラレタル金、公債、有価証券、財産又ハ商品ニシテ英吉利國臣民ノ專有財産タルコトヲ立証シ得サルモノノ差押ニ關スル訴訟ノ結果英吉利國裁判所カ本協約調印前露西亞國勞農政府若ハ其以前ノ露西亞國政府ノ負ヘル債務ノ理由ニ因リ是等ノ金、公債、有価証券、財産又ハ商品ノ差押ヲ有効ナリト判決シタルトキハ露西亞國勞農政府ハ直ニ本協約ヲ終了セシムルノ權利ヲ有スヘク又當事國ノ一方カ如何ナル時タルヲ問ハス本協約ノ規定又ハ本協約前文ニ掲クル條件ノ何レカニ違反シタルトキハ他ノ當事國ハ直ニ本協約ニ依ル義務ヲ免カルヘシ但シ此ノ場合ニ於テ侵害ヲ受ケタル當事國ハ本協約ト相容レサル何等ノ行動ニ出ツルニ先チ説明ヲ為シ又ハ非行ヲ匡正スル

為相当ナル機会ヲ他ノ当事國ニ与フヘキモノトス
前記但書ノ予見スル何レノ場合ニ於テモ各当事國ハ本協約ニ遵ヒ既ニ行ハレタル取引ヲ本協約ノ原則ニ遵由シテ清算スル為竝其ノ領域ヨリ對手國國民ノ退去出國スル為及動産ヲ撤去スル為必要ナル一切ノ便宜ヲ与フヘキコトヲ相互ニ約定ス

本条ニ拠リ本協約ヲ廢棄スル六箇月ノ予告アリタル後ハ本協約ニ拠リ行ハルヘキ新取引ハ凡テ六箇月以内ニ完了セラルヘキモノタルヘシ其他ノ一切ノ点ニ於テハ本協約ノ規定ハ其ノ終了ノ時ニ至ル迄完全ナル效力ヲ存続スルモノトス

第十四条 本協約ハ英語ヲ以テ認メラレ且調印セラル但シ露語ノ翻訳完成シ兩当事國ノ同意ヲ得タル上ハ英露兩國語正文ハ共ニ一切ノ目的ニ於テ公正ト看做スヘキコトヲ約定ス

千九百二十一年三月十六日倫敦ニ於テ署名ス

アール、エス、ホーン

エル、クラッシン

請求權承認ノ宣言

六六三 三月二十二日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英露通商協定調印ニ関スル英國ノ新聞論調ニ

付報告ノ件

第四〇二号

(三月二十四日接受)

英露通商協約調印ニ関スル當國ノ論調ハ明確ニ賛否ノ兩論ニ分レ「タイムズ」「テレグラフ」「モーニング、ポスト」等保守派新聞紙ハ在來ノ論調ヲ繰返シ黨奪政府ノ *de facto* 承認ハ判明ナル罪惡タル而已ナラズ不信用ナル勞農トノ通商ハ事實不可能ナリトテ政府ノ措置ヲ論難シ殊ニ「モーニング、ポスト」ハ保守派タル統一黨ガ結束シテ其ノ所信ヲ主張スルニ於テハ現政府ハ恐ラク顛覆スベク外政ノ任ニアル「カーゾン」卿ガ調印ヲ默認シ晏然トシテ其ノ地位ニ在ルハ了解シ難キ処ナリトテ統一黨ノ態度ニ肉迫シ又反勞農露國人ハ金貨ヲ對価トスル通商ハ露國將來ノ財政ノ基礎ヲ危クスルモノナリトテ反對論ニ氣勢ヲ添ヘタルガ一方勞働及自由派新聞ハ調印ヲ以テ對露問題解決ニ一步ヲ進メタルモノニシテ歐洲平和及經濟改造ノ階段タル而已ナラズ延イテ英國ノ産業ヲ復興セシメ失業問題解決ノ一助タルベ

兩当事國ハ前記通商協約ヲ調印スルニ當リ財産若ハ權利ニ関シ又ハ各当事國ノ現在政府若ハ旧諸政府ノ負担シタル債務ニ関シ當事國ノ一方若ハ其國民ノ他方ニ對スル一切ノ請求權ハ前文ニ掲ケタル正式一般平和條約ニ於テ衡平ニ之ヲ処理スヘキコトヲ宣言ス

當分ノ内且前記規定ノ一般趣旨ヲ妨クルコト無ク露西亜國勞農政府ハ露西亜國ニ物品若ハ勞務ヲ供給シタル私人ニシテ未ダ其ノ支払ヲ受ケサルモノニ對シ報償ヲ与フヘキ義務アルコトヲ主義トシテ承認スルモノナルコトヲ宣言ス右義務履行ノ詳細ナル方法ハ右協約前文ニ掲クル條約ニ依リ之ヲ規定スヘシ

英吉利國政府ハ茲ニ同様ノ宣言ヲ為スモノナリ
前記兩宣言ハ其中ニ掲ケラレタル一切ノ請求權カ前記條約ニ於テ處理セラルヘキ他ノ種類ノ請求權ニ比シ右條約上何等優先的待遇ヲ受クルコトヲ意味スルモノニアラサルコトハ明瞭ナリトス

千九百二十一年三月十六日倫敦ニ於テ署名ス

アール、エス、ホーン

エル、クラッシン

シトテ協約ノ成立ヲ歡迎シ「ヘラルド」ノ如キハ之レ勞働ノ勝利ニシテ帝國主義的政策ノ降伏ナリトテ得々タルモノアリ當業者側ニ於テハ債權承認宣言ヲ以テ或程度迄満足シ居ルモ協約ノ實際上ノ效果ハ急速之ヲ望ムヘカラズトナシ且信用制度ヲ露國ニ拡張スルハ納稅者ノ負担ヲ増ス危險アリト戒メ居レリ

翻ッテ露國側ノ態度ヲ見ルニ「クラッシン」ハ戰爭及革命ノ結果疲弊ノ極ニ達セル露國トノ通商ガ協約成立ト共ニ直ニ満足ニ行ハル可シト望ムハ無理ナルノミナラズ露國金塊及貨物ノ差押ニ關スル試験訴訟ノ結果判明スル迄ハ通商ハ不確定ノ狀態ニ在リ又露國ノ望ム所ハ勞農政府ノ完全ナル承認ニ在リトテ樂觀論者ヲ戒メ居レルガ最近 *Reval* 發電ハ第十回勞農大會ハ列國トノ通商關係設定ニ關スル政府ノ政策ヲ承認シタルコト竝 *Lenin* ノ態度大ニ緩和セラレ同人ガ世界革命急速ニ行ハレ難キニ依リ外國人ニ對スル利權供与、農民ノ土地所有權、諸工業ニ對スル資本主義ノ妥協ノ止ムベカラザルコトヲ認メ又英露通商協約成立ハ英國ガ勞農ノ基礎強固ナルヲ認メタル結果ニシテ他列國亦其例ニ倣フニ至ルベシト述ベタル旨ヲ伝ヘタリ

又反對論者ハ協約調印ト共ニ印度ニ對スル勞農ノ宣伝禁圧ニ關スル公文ヲ發表セルコトヲ非難シ居レルガ勞農ハ已ニAfghanト協約ヲ結ビ之ニ對シ年百万留ノ補助金ヲ与ヘ相互ニ領事ヲ駐在セシメ且統治國ノ一方ニ有害ナル條約ヲ第三國ト締結セザルコトヲ約シタルノミナラズ凡テノMoslem宗ノ諸國トモ亦此種協約ヲ締結セントストノ報アリ右報道ニシテ果シテ事實ナリトセバ之協約條件ニ抵觸スルモノナリト目セラレ居レリ

在歐米各大使ヘ転電セリ

六六四 三月二十二日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英露通商協定ニ關スル仏國ノ新聞論調ニ付報告ノ件

第四二六号

(三月二十四日接受)

当地新聞中今回英國ガ露西亜ト通商協約ヲ締結シタルハ曩ニ同國政府ガ独逸ニ對シテ為シタル宣告ニ依リ失墜セル人氣ノ回復策ナリト云フモノアリ「ユーマニテ」紙ハ英國已ニ公然露國ト交渉ヲ開始シ日本伊太利以下ノ諸國又之ニ倣ハントスルノトキ独リ仏國ノミ百八十億ノ旧負債ト「コル

チャク」「デニキン」ニ徒ニ貸付ケタル幾十億ノ新債務ノ償還ト過激派其ノモノノ滅亡トヲ期待シツツアル愚ヤ笑フ可シト論ジ社会党ノ立場ヨリ通商開始ヲ懲慝セリ「ル、タシ」ハ曰ク英露ガ「コペンハーゲン」ニ交渉ヲ開始シテヨリ其ノ協約締結迄十五ヶ月最初英國ハ通商開始ニ依リテ過激派ノ倒潰ヲ予期シタルガ如キモ此ノ予想ハ全ク外レタリ而シテ今日成立セル協約ハ通商ノ名義ヲ有スルモ其実一ノ政治協約ナリ即露國ハ亜細亞ニ於テ如何ナル人民ニ對シテモ英國ノ利益ニ反對ノ行動ヲ助長セシメザル可ク英國モ亦旧露帝國ヨリ獨立セル諸國ニ付テハ露國ニ反對ノ行動ヲ助成セザル可シト云フニ在リ結局露西亜ハ土耳其ノ國民黨ヲ援ケズ英ハ「ジョルジャ」「アルメニア」「アゼルバイジャン」等ノ獨立ヲ援ケザルノミナラズ波羅の諸國「ベッサラビア」波蘭等ニ於ケル露國ノ行動ニ對シテモ何等反對セザルモノト解シテ可ナラン英國ガ露西亜ニ於テ通商上ニモ何等カ利益ヲ占メントスルハ勿論ナルガ聞ク処ニ抛レバ現ニ露國ニハ金塊ナク三億五千万留内外ノ金貨アルノミニテ夫レスラ過半ハ已ニ註文済ノ分ニ對シ支払ハルベキモノナルガ如シ又露國ガ物資ヲ以テ支払ヒ得ル年額ハ「クラッソ

シ」ノ言ニ依ルモ英貨五千万磅ヲ出デズ從テ過激派唯一ノ財源ハ鉱山森林等ニ對スルConcessionヲ外國ニ許スニアルノミ而之等ノ權利ハ過激派ノ顛覆ヲ俟タザレバ享有ノ途ナキモノナリ故ニ英國商人ノ欲スル処ハ先ヅ過激派政府ヲ満足(脱)諸種ノ權利ヲ譲リ受ケ後之ヲ有效ナラシメンガ為ニ過激派ノ変節又ハ凋落ヲ望ム可ク英政府ノ對露政策ハ畢竟之ノ二大必要ニ応ズルノ外ナカル可シ此間ニ処シ仏國既得ノ權利ハ右新協約ニ依リ何等影響ヲ被ラザルコト及英國領土内ニ於テ過激派ガ對仏「プロバガンダ」ヲ為スコカラザルコトニ付英政府ノ保障ヲ求ムルハ今回ノ急務ナリ云々

六六五 三月二十五日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英露通商協定ノ締結ニ關シ下院ニ於ケルロイ
ド、ジョージ首相ノ見解表明等ニ付報告ノ件

第四〇九号

(三月二十七日接受)

二十二日「ロイド、ジョージ」首相ハ下院ニ於ケル歳入予算案討議ノ際露國問題ニ關スル統一黨議員ノ質問ニ對シ英國政府ハ事實有ノ儘勞農政府ガde facto政府タルコトヲ

認メテ通商協約ヲ締結セルガ之單ニ通商のモノニ止リ平和和約ニアラズ英國政府ハ始メ歐露及亜細亞露西亜ニ於ケル一切ノ問題ヲ解決センガ為仏國政府ノ同意ヲ經テ平和會議ヲ提議セルモ同政府ハ之ニ応ゼザリシニ依リ已ムヲ得ズ本通商協約ヲ締結スルニ至レル次第ナリ協約宣言ノ文意ハ頗ル広汎ニシテ一切ノ對露債權ハ後日ノ解決ニ譲ラレ英國民ノ受ケタル損害ノ要償モ亦留保セラレ居リ決シテ廢棄セラレタルモノニ非ズ而シテ又吾人ハ仏國ノ對露債權巨大ナルヲ認メ露國ト西欧諸國トノ間ニ正式平和和約討議ノ場合仏國ノ主張ヲ支持スベキコトヲ約シタリ對露通商開始ニ關シテハ幾度カ議會ニテ討議セラレ協約締結ヲ見ルニ至レル次第ニテ市中當業者モ本協約ノ成立ヲ一般ニ歡迎シ居レリ本協約ハ相互ノ利益ノ為ニ締結セラレタリ余ハ各方面ヨリ凡ユル報道ヲ求メ事態ヲ注視シ居ルモ現在ニ於ケル露國ノ制度ガ永續スベキヤ否ヤニ付テハ之ヲ断言スルコトヲ好マズ現在ニ於テハ勞農政府ニ代ル可キモノアルヲ見ズ但シ數ヶ月前途行ハレタル極端ナル共產主義ガ變化セントシツツアルハ看過ス可カラズ是彼等ガ人類ノ性質ニ鑑ミ到底実行不可能ナル制度タルコトヲ認メタルモノニシテ最モ注意ス

ベキ点ナリトス檢閱済ノ莫斯科無線ハ資本制度私人企業ニ向ッテ一大変化ヲ示セルコトヲ報ジ居レリト述ベテ「レニン」ノ演説ハ勞働組合ニモ容レラレザル程ノ保守的ノモノ也ト擲論シ次デ露國ハ今ヤ飢餓困憊ノ極ニ達シ「レニン」ハ始メテ「マルクス」ノ学説ヲ以テシテハ到底國政ノ料理シ難キヲ知レリ是通商協約ノ利益ノ一ナリ或者ハ吾人ヲ目シテ殺人犯者ト握手セリト云フモ吾人ハ彼等ヲ善良ノ市民ニ改宗セシメントス是最善ノ教育方法タレバナリ余ハ彼等ト交渉ヲ始メタル日ヨリ「レニン」等ガ敏腕有能ノ士タルヲ知レリ彼等ガ今ヤ彼等ノ主義ヲ抛棄セントスルニ見テモ之ヲ立証スルコトヲ得ベシト結ビタルガ勞働黨議員ハ協約成立ヲ歡迎セルモ「レニン」ハ首相ノ云フガ如ク其主義ヲ變更シタルニ非ズ唯周囲ガ資本主義ノ國ナルガ故ニ一時之ニ適応スルノ策ヲ取リツツアリト述ベ自由黨員ハ本協約ハ經濟上ヨリモ寧ロ政治的意味深シト論ジ統一黨員ハ一般ニ協約ニ反対ニシテ其一議員ノ如キハ首相ハ既ニ聯立統一黨ト聯立自由黨ノ兩馬ニ跨リタルモ今ヤ勞働黨ヲ味方ニ引入レ三馬ニ騎乗スルノ技ヲ演ゼントシツツアリト述ベテ首相ノ態度ヲ非議セリ

(一)軟化シテ残り存続スル場合

二、其ノ儘又ハ軟化シテ早晚倒ルル場合

(一)外部ヨリ倒サル場合

甲、外國軍ヨリ倒サル場合

イ、聯合國軍ヨリ倒サル場合

ロ、独逸軍ヨリ倒サル場合

ハ、独逸及聯合國兩軍ヨリ倒サル場合

乙、露軍ヲ加ヘタル外國軍ヨリ倒サル場合

イ、露軍ヲ加ヘタル聯合國軍ヨリ倒サル場合

ロ、露軍ヲ加ヘタル独逸軍ヨリ倒サル場合

ハ、露軍ヲ加ヘタル独逸及聯合國兩軍ヨリ倒サル場合

(二)内部ヨリ倒サル場合

甲、国内ニ在ル反「ボリセヴィキ」派ヨリ倒サル場合

乙、赤軍ヨリ倒サル場合

イ、普通ノ赤軍ヨリ倒サル場合

ロ、「コンムニスト」軍ヨリ倒サル場合

丙、勞農ヨリ倒サル場合

在歐米各大使へ転電セリ

六六六 五月二日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛

露國過激派政府ノ将来ノ運命ニ関スル上田書

記官ノ報告送付ノ件

公第二一一号

(六月十三日接受)

大正十年五月二日

在仏

特命全權大使子爵 石井 菊次郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

「露國過激派政府ノ将来」送付ノ件

上田書記官起稿ニ係ル「露國過激派政府ノ将来」ニ関スル別紙報告及提出候条御査閲相成度候也

(別紙)

露「ボリセヴィキ」政府将来ノ運命

露「ボリセヴィキ」政府将来ノ運命如何ニ関シ有リ得ヘシト想像セラルル有ラユル場合ヲ列挙スレハ

一、其ノ儘又ハ軟化シテ残り存続スル場合

(一)其ノ儘残り存続スル場合

(二)自滅スル場合

ノ外無キカ何レニシテモ露「ボリセヴィキ」政府カ其ノ儘残り存続スル場合ハ到底有リ得ヘカラサルナリ何トナレハ

第一露「ボリセヴィキ」政府カ其ノ儘残り存続スル場合

ニハ世界ハ社会共產主義制ノ天下トナルニ至ルヘキモ歐米文明諸國ニ同制ヲ實現セシムルニハ先決問題トシテ諸國ノ現資本制度ヲ根本的ニ破壊スルヲ要スル処資本ノ力大ナル歐米文明諸國ニ之カ破壊出来得ヘキヤ疑問ナレハナリ但シ歐米文明諸國ニ於テハ一度其ノ資本制度ヲ破壊セハ或ハ社会共產主義制度ノ實現容易ナルヘキモ現資本制度ヲ破壊スルコトハ大ニ困難ナルヲ以テ世界各國カ社会共產主義制ノ國タルコトハ近キ将来ニ於テ不可能ナリ

第二露國ノ如キ未開ノ農業國ニシテ土地問題ヲ不問ニ附シアリタル國ニ於テハ農民ニ対シ土地分配ヲ標榜シテ現制度ノ破壊ヲ行フコトヲ得タルモ農民カ小地主タランコトヲ以テ唯一ノ目的トスル露國ニ於テ社会共產主義制ヲ完全ニ實現セシムルコトハ全然不可能ナリ

要スルニ遠キ将来ニ於テハ兎モ角資本制度ノ勢力偉大ナル現代ニ於テ此ノ制度ヲ破壊スルコトハ不可能事ニシテ此ノ事ハ「レーニン」自ラモ認識セリ帝政時代ニ於テ政治的犯罪人トシテ西伯利ニ流謫又ハ国外ニ放逐セラレ革命ト同時ニ露國ニ歸リ天下ヲ取リタル「ボリセヴィキ」政府閣員ノ真目的ハ共產主義制ノ実現ニアラスシテ単ニ現制度ノ破壊ニ在リ何故ニ現制度破壊ノ必要アリシヤトノ疑問ニ對シテハ猶太人及独逸人ニ於テ満足ナル説明ヲ与ヘ得ヘシ

次ニ露「ボリセヴィキ」政府ハ軟化シテ存続スヘキヤ否ヤニツキ説分ルルモ軟化ハ

第一社会主義カ資本主義ニ変シタルコトヲ意味スル

ニアラサレハ

第二所謂世界革命宣伝ノ手段ヲ意味ス

然ルニ露「ボリセヴィキ」即チ勞農「ソヴェート」政府カ共產主義ヲ棄テテ資本主義ヲ採ルコトハ「ボリセヴィキ」ガ反「ボリセヴィキ」ニ降服シタルト同一ニシテ從ツテ軟化シタル所謂「ソヴェート」政府ハ其ノ名コソ「ソヴェート」政府トシテ残ルトモ其ノ実資本主義地方自治非中央集權の政府ニ外ナラス若シ将来ノ露國カスル意味ノ「ソヴェ

ート」政府トセハ其ノ当局者ハ最早「ボリセヴィキ」即チ「レーニン」、「トロツキー」ニアラスシテ反「ボリセヴィキ」派人士ナリ果シテ然リトセハ露「ボリセヴィキ」政府ヲ承認シテモ其ノ所謂軟化シタル「ソヴェート」政府ヨリ雷ニ何等德トセラルルコト無キノミナラス反ッテ恨マルルニ至ルヘシ此ノ意味ニ於ケル露「ボリセヴィキ」政府ノ軟化ハ自滅ト同一ナルカ此ノ場合ニハ同政府ハ或ハ自己ノ直參藩屏タル共產黨員殊ニ旧刑事犯罪人側ヨリ倒サルルニ至ルヘシ露「ボリセヴィキ」政府部内ニ政府カ軟化シテ残ルコトヲ希望スル者少カラスト雖モ軟化其ノモノハ不可能ニアラストスルモ軟化シテ残ルコトハ更ニ不可能ナルヘシ

露「ボリセヴィキ」政府ノ軟化ハ同政府カ世界革命宣伝ニ必要ナル一種ノ手段ニ外ナラストノ説ハ「ボリセヴィキ」ノ消息ニ通スル露西亞人一派ノ見解ニシテ同派人士ハ同政府カ軟化スルモノト見テ樂觀スルハ危險ニシテ軟化ハ即チ露「ボリセヴィキ」政府ノ世界革命的宣伝ヲ容易ニスルモノナリトセリ同見解ノ正否ハ別問題トシ其ノ軟化ノ目的カ少クトモ早晚露國ニ当然發生スヘキ所謂猶太人征伐（ボグロム）防止ニ在ルコトハ明瞭ニシテ露國內ノ同胞ニ同情ヲ

表スル内外猶太人殊ニ資本家ハ「ボグロム」無シニ同政府ヲ自滅セシメンカ為間接ニ前記ノ目的ノ為極力運動シツツアリト云フ最近「レーニン」カ「カールマルクス」ノ主義ヲ放棄シテモ同主義ヲ奉スル共產黨員ヲ救フヲ要スト私語シタリト称セラルルモ即チ之カ為ナリ要スルニ露「ボリセヴィキ」政府ハヨシヤ軟化シタリトシテモ永久ニ存続スルヲ得スシテ早晚倒ルルニ至ルヘシ

露「ボリセヴィキ」政府カ既ニ早晚倒ルルモノトセハ他ヨリ倒サルヘキヤ將又自ラ倒サルヘキヤ若シ夫レ他ヨリ倒サルルトセハ外部ヨリ倒サルヘキヤ將又内部ヨリ倒サルヘキヤハ問題ニシテ今日何人モ之ニ對シ明答ヲ与ヘ得サルナリ然レトモ

第一聯合國カ兵力干涉ヲ断念シ

第二露反「ボリセヴィキ」政府及其ノ軍カ総崩トナリ

タルノ今日ニ在リテハ列國殊ニ英國カ對露政策ヲ變更セサル限り又仏國カ「ウランゲリ」軍ニ對スル態度ヲ改メサル限り露「ボリセヴィキ」政府ハ外部ヨリ倒サルルコト無クシテ内部ヨリ倒サルヘシトノ判断ヲ下スノ外無シ然レトモ同政府カ内部ヨリ倒サルルマテニハ尚幾多ノ時日ヲ要ス

露「ボリセヴィキ」政府カ内部ヨリ倒サル場合ニハ猶太人征伐ノ実現ハ到底免ルヘカラサルヲ以テ内外ノ猶太人ハ之カ実現ヲ遮ル為同政府ヲ軟化セシメテ以テ之ヲ自滅セシムルヲ必要トセリコレ即チ欧米ニ於テ最近「レーニン」軟化説カ熾ンニ唱ヘラルル所以ナリ同政府カ現在實際軟化シツツアルハ事實ニシテ昨今同政府カ下シタル自由販売許可土地使用令等其ノ他幾多ノ法令ハ之カ实例ナリ然レトモ露「ボリセヴィキ」政府カスル法令ヲ下シタル動機ハ第一經濟財政破綻ノ結果ニ對スル自衛策ニシテ同法令ヲ目シテ破滅ノ第一歩トスルニアラサレハ或ハ之ニヨリテ内部の休養ヲ求メ次テ世界革命的煽動ヲ始メンカ為ニ外ナラス然ルニ之ヲ以テ露「ボリセヴィキ」政府ハ軟化シテ共產主義ト資本主義トノ中間ニ落着クヘシト見ルハ大ナル誤ナリ何トナレハ根本的性質ノ一致ヲ欠クヲ以テナリ

要之事實軟化ニ傾キタル露「ソヴェート」ハ他ヨリ倒サルルカ又ハ自滅スルノ外無カルヘシ若シ同政府カ其ノ共產主義ヲ全然棄テテ資本主義ニ出ツル場合ニハ「ソヴェート」政府ハ早ヤ既ニ「ボリセヴィキ」政府ニアラスシテ反「ボリセヴィキ」政府ニ外ナラサルヲ以テ「ボリセヴィキ」政

府ハ自減シタルト同一ナリ從ツテ此場合ニハ露國ハ反「ボリセヴィキ」ノ天下ニシテ最早「ボリセヴィキ」ノ天下ニアラサルナリ故ヲ以テ斯ル場合ハ軟化ニアラスシテ寧ロ之ヲ自減ト見ルヲ正当トス此ノ種ノ軟化ハ頗ル疑問ニシテ而モ其ノ軟化完成マテニハ幾多ノ歲月ヲ要シ軟化ニ傾キタル「ボリセヴィキ」政府ハ其ノ前ニ他ヨリ倒サルルニ至ルヤモ保シ難キヲ以テ我日本ハ之ニ対シ多大ノ注意ヲ払ヒ健全ナル對露政策ヲ立テ着々之ヲ行フノ举措ニ出ツルヲ要ス

六六七 五月六日 在瑞典烟公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

勞農政府ノ英米トノ通商及日本トノ交渉開始
希望等ニ関スルリトヴィノフノ談話ヲ北田書
記官ヨリ報告ノ件

第一三四号 (五月八日接受)

北田ヨリ左ノ通り

本官ハ四月二十八日勞農政府一員ノ希望ニ依リ「リトヴィノフ」ト会见シタルガ同人ハ頗ル慇懃坦懷ニ大要左ノ通語レリ

自分ハ五月初メ莫斯科ニ赴クベキモ羅馬尼ト談判ノ為再ヒ

付同國ノ援助ヲ得ムカ為ナリト觀測ス

勞農政府ハ「バルチック」諸國其他トノ條約ヲ履行シ資本國トノ共同生存ノ可能ナルヲ示セリ英露條約ニ規定セル宣傳ノ件モ遵守スベク「タイムス」發表ノ秘密訓令ノ如キハ捏造ナルヲ示セリ目下波斯方面ヨリハ撤兵中ニテ軍隊出動說ノ如キハ事實ニ非ズ各國ノ資本家等ハ巧ニ我政府ヲ中傷スルヲ以テ充分御注意ノ上真相ヲ見極メラレンコトヲ希望ス

日英同盟ハ結局成立ノ模様ナルガ其目的及精神ガ一般平和ノ維持ニ在ルカ又ハ露國ニ対スルモノナルカハ條約文ヲ見ザレバ判斷シ難キモ印度及支那ニ於ケル平和維持ノ取極ナラバ世界平和ノ為歡迎スベキモノナルヤモ知レズ

日米戰爭論ハ独逸側ノ宣傳ニ胚胎シ戰後英國ノ一部ニモ之ヲ流布スルモノアリ露國モ亦之ヲ利用セリ日米兩國ハ經濟上密接ノ關係ヲ有シ且兩國有力者中ニハ相互ノ親善ヲ希望スルモノモアリ外部ヨリノ煽動ト係争案件ノ増加ニ從ヒ當局者モ平和的協定ニ一層努力スベキコトハ予想シ得ル所ナルカ現在ノ如キ情勢ニ放任セバ早晚衝突ヲ免レスト信ズ戰前ノ英独及露獨ノ經濟關係ハ頗ル密接ナリシニ拘ラス戰爭

「レヴァアル」ニ歸ルベシ

英露ノ通商ハ金貨問題等未解決ナルモ取引ハ頻繁ニ行ハレ五月中ニハ過去一ケ年ノ総輸入額ニ等シキ貨物英國ヨリ到着スベク特ニ注意スヘキハ最近英國政府ガ無担保ニテ多額ノ信用ヲ与ヘ呉レタルコトナリ尤モ勞農政府ハ外國ノ貨物供給能力以上ニ支払貨幣ヲ有ス「コンセツション」ニ就テハ自分初メ各國ニ於ケル商業委員ガ各方面ノ代表者ト交渉中ナルモ条件及先方ノ資力等ニ就キ慎重ノ考慮ヲ要シ實際ノ処今日迄未ダ纏マリタルモノナシ

「バクー」ノ「コンセツション」成立說ハ事實ニアラス「バンダリッップ」トハ引続キ商議中ニテ同氏ハ「カリフォルニア」ノ有力資本家ノ外共和党内ニ多数ノ後援者ヲ有シ交渉ノ目的物中ニハ北樺太ノ石油、石炭、勘察加、西比利亞ノ鉄及石炭等アリ尤モ勘察加ハ全部ノ租借ニアラズ漁業權其ノ他個々ノ利權ニ関スルモノナリ

自分ハ米國政府ノ公式半公式代表者ト屢々会见シツツアルガ米國ハ当分條約締結問題ニ触レス事實上商業關係ノ開始ヲ申出デ居ルモ右ハ実行不可能ニ付応ジ得ズ自分ハ「ハーディング」ノ現在ノ態度ハ仏國ノ意ヲ迎ヘ日米繫争問題ニ

ヲ避ケ得ザリキ

勞農政府ハ衷心日本トノ平和ヲ欲シ其ノ政治組織ニ干渉セザルハ勿論支那ニ対シテモ侵略政策ヲ執ラズ革命ノ宣傳モ為サザルヘク滿洲樺太西比利亞ニ対スル政治經濟的利益モ自分等ノ充分尊重セントスル所ナリ勞農政府ガ主義シテ外國ニ利權ヲ与フルコトニ決セル以上前記ノ地方ニ於テ日本及日本人ニ優先權ヲ認ムヘキハ穩當公正ノ処置ニシテ斯クテコソ日露兩國ノ平和的共存モ永続的タリ得ベシ勞農政府ガ米國人ト利權ノ交渉ヲ為シツツアルハ目下米國人中大ニ之ニ興味ヲ有スルモノアルト今日迄日本側ヨリ何等ノ申込ナカリシガ為ニシテ米國モ日本ヲ出シ抜クコトハ困難ナルベク自分等トモ真面目ニ之ニ依リ日米戰爭ヲ誘起シ得ベシトハ考ヘ居ラズ勞農政府ノ諸新聞ガ種々ノ議論ヲ為シツツアルハ正直ニ云ヘバ記者連中ノ私見ニ過ギズ

勞農政府ハ曩ニ無線電信ヲ以テ日本ニ平和ヲ提議シ自分ハ「ストックホルム」及「コペンハーゲン」滯在中之ニ対スル回答ヲ期待シタリ日本ヲ除ク各國代表者ハ仏國ニ至ル迄皆自分ト意見ヲ交換シタリ日本ニ対スル提議ハ勞農政府ノ重ヲ措キタル所ナルガ日本ガ何等ノ挨拶ナカリシハ遺憾ナ

リ其後提議ヲ差控ヘ居ルハ日本ニ毫モ交渉ノ意思ナキモノト推定シタルガ為ナリ日本ニ対スル平和条件ハ領土ノ保全ト干涉ノ中止ニアリ反過激派ノ危険ハ吾等ノ甚ダ困却シ居ル所ナリ右ノ条件以外当方ヨリ進テ日本ノ意ヲ迎フル具體的提案ヲナスハ不可能ニテ右ハ日本側ヨリ申出ヅルガ順序ナリ若シ日本ヨリ提案アラバ玆ニ講和ノ前提備ハリ交渉ヲ進メ得ヘシ

極東共和国ハ一ニ日本ノ強請ニ依リ成立シタルモノニシテ目下莫斯科ト独立シ居ルモ右ノ原因ナカリセバ西比利亞ハ当然勞農政府ト合体スベキモノナリ現ニ我等ハ極東共和国ニ対シ種々ノ援助ヲ与ヘツツアリ

先般小松原大尉ヨリ知多ニ代表者ヲ派遣スル様交渉アリ自分ハ之ニ応ジタルモ其後同大尉ヨリ日本政府ニ於テハ知多ニ代表者ヲ派遣スルコトヲ見合ハスルコトナレリトノ通知アリタリ極東ト莫斯科トノ交通通信ハ思フニ任セズ同方面ニ全権委員ヲ派遣スルハ困難ニ付若シ日本トノ交渉ヲ開クトセハ「レヴァル」又ハ「リガ」ヲ便宜トスベク自分ハ日本政府ガ速ニ勞農政府ト接触セラレンコトヲ希望ス其形式ハ日本ノ希望ニ依リ公式非公式又ハ秘密何レニテモ差支

化シ新ナル政權者ハ現政權者ニ代ルニ至ルベシ而シテ其ノ代リ具合ハ必ズシモ一足飛ビ乃至平和手段ニ出ヅルコトナク政府部内ニ於ケル内輪喧嘩ノ形式トシテ「レーニン」ハ「トロツキー」ヲ継ギ次ニ「クラッシン」ハ「レーニン」ヲ継ギスル塩梅ニテ順次新人物ガ政府ヲ組織スルニ至ルベシ勞農政府ハ自己ノ命脈ヲ伸バスノ目的ヲ以テ外国ト通商ヲ開始スルニ決シタルモ經濟的組織能力ヲ有セザレバ如何ニ之ヲ開始シテモ命脈ヲ伸バスヲ得ザルベキノミナラズ正金ヲ外国ニ取り尽サルレバ夫レ丈壽命ノ尽クル時機早カルベシ露人間ニハ外国ガ勞農政府ト通商シ露國ノ正金ヲ取り出スコトニ反対ナルモ余ハ右ノ理由ヨリシテ外国ガ露國ノ正金ヲ取り出スコトニ寧ロ賛成ナリ

「マクラコフ」大使曰ク勞農政府ハ今トナリテハ内部ヨリ崩ルルノ外ナク否現ニ崩レカカリ来レリ「レーニン」「トロツキー」ノ反目ハ見物ニシテ勝利ハ「レーニン」ニ歸スルモノノ如シ若シ「トロツキー」一派ガ勝利ヲ制スレバ同政府ノ瓦解ハ一時延引スベキモ「レーニン」勝利ノ場合ニハ瓦解ハ存外早カルベシ何トナレバ「レーニン」ガ軟化セバ勞農政府管内ニ在ル住民ハ自然運動ノ自由ヲ得容易ニ政

ナク交渉ノ目的モ講和ナルト通商ナルト將又殘留日本人ノ処置其他如何ナル名義タルヲ問ハザルナリ若シ此會話ガ談判ノ端緒トモナレバ幸ナリ

六六八 五月十七日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

露國勞農政府ノ命運ニ関シ巴里在住露西亞人
ガ上田二内話シタル觀測ニ付報告ノ件

第七三六号 (五月十九日接受)

昨今在巴里上田書記官ガ各方面ノ露西亞人ニ逢ヒ露國ノ現状ニ関シ聽得タル意見ヲ綜合スルニ彼等ハ勞農政府ガ共產主義ヲ棄ツベシトノ外国人ノ樂觀的觀察ヲ一笑ニ附シ同政府ガ共產主義ヲ棄テカカリタルハ事實經濟的破綻ノ極ニ達シ同主義ニテハ立行カザルコトヲ實驗シテ途方ニ暮レタルト同時ニ亞細亞未開國ハ兎モ角歐米文明國ニテハ革命戰ハ当分見込ナキコト明白トナリタルガ為ニシテ瓦解ニ近ヅキタル証拠トセリ本件ニ関シ露國知名ノ士ガ同官ニ内話シタル所左ノ通り

「ルマノフ」(新聞記者)曰ク勞農政府ハ其ノ名コソ或ハ当分殘ルベキモ其ノ実ハ一変シ從テ共產主義ハ資本主義ニ

府ヲ倒スヲ得ベケレバナリ露國今日ノ急務ハ住民ニ活動ノ自由ヲ得シムルニアリ之ガ為ニハ「レーニン」ノ軟化シテ個人ニ通商取引ノ自由ヲ与ヘタル場合ヲ機トシテ外國ヲシテ之ト直接ニ通商セシムルコト必要ナリ此ノ点ヨリシテ余ハ通商開始ニ賛成ナルモ英國ノ如ク對勞農政府通商ニハ反対ナリ何トナレバ住民ト通商行ハルレバ住民ハ自由ヲ得テ活動スルヲ得ベキモ勞農政府ト通商ハ政府ノ權力ヲ増スノミニシテ人民ハ益々圧迫セラルルニ至ルベキヲ以テナリ「デニソフ」(露國財政商業聯合會頭)曰ク勞農政府ハ破壊ニ巧ナルモ建設能力ナシ露國今後ノ急務ハ建設ニアリ建設ニハ商工業者ノ力ヲ要ス故ヲ以テ同政府ハ商工業者ヲ必要トスルモ商工業者ハ歸國シテ同政府ノ下ニ働クヲ欲セズ之ガ為同政府ハ早晚瓦解スルニ至ルベシ
波蘭及英獨伊ヘ郵送セリ

六六九 六月十一日 在獨國日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

伯林ニ於テ英獨實業家外國貿易人民委員クラ
ッシント對露通商ニ付協議ノ件

第一五二号 (六月十八日接受)

六月八日「ターゲブラット」記者ヨリ過日「クラッシン」通過ノ際「スチンネス」一派ノ独逸実業家及英國実業家代表者ト会合シ熟議ノ結果對露通商ニ関シ英独逸実業家間ニ合同成立シタル旨並右会談ノ際「レーニン」ニ對シ反対者ヲ除外シ「コアリション」ヲ組織スル様提議シタル旨確實ナル筋ヨリ得タル報道トシテ当館ニ内報シ来レルガ右新聞ハ同日夕刊ニ右記事ヲ掲載シ且九日ノ新聞ニ追報トシテ英國側ハ Vickers 重ナル代表者ナルコト尚英独關係者ハ米國及日本ヲモ引入レントスル方針ニシテ已ニ探リヲ入レ居ル趣ヲ掲載セリ依テ九日不取敢米國政府代表者ニ尋ネタルニ同代表者ノ内探セル所ニ依レバ未ダ正式ノ合同成立シタル模様ナキモ「クラッシン」ト英独實業家間ニ何等カノ談合アリタルコト事実ト認メラレ独逸側ニ於テハ「アルゲマイネ」電氣会社社長「ドイッチ」右会合ニ加ハリタルコトヲ突止メタルモ英國側ハ何人代表セルヤ不明ナリト語レリ本件真相ハ尚探究ヲ要スルモ「ターゲブラット」紙ハ独逸一流ノ新聞ニシテ殊ニ實業界ノ消息ニ通ジ居ルノミナラズ前記米國政府代表者談話ノ次第モアリ兎ニ角對露通商上英独實業家側ニ何等カノ談合進行シ居ルニ非ズヤト存ゼラル

メ英國政府亦 Hodgson 氏ヲ同代表者トシテ七月初莫斯科ニ派遣スルニ決セル趣尚六月十二日下院ニ於ケル質問ニ對スル政府側ノ答弁ニ依レハ通商協定成立以來ノ對露輸出額五万一千二百四十六磅ナル趣ナリ
在仏大使へ転電セリ

六七一 六月二十三日 在瑞典國烟公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英独間ノ對露共同投資ノ動キニ付北田書記官
ヨリ報告ノ件

第一八〇号 (六月二十五日接受)

北田ヨリ左ノ通り

目下英國政府ハ可成速ニ歐洲問題ニ一段落ヲツケ余力ヲ近東問題ニ注ガントスルト共ニ熱心ニ「レーニン」ヲ支持シ其新經濟政策ヲ実行セシメントシ對露事業ノ危險ヲ分担シ競争ヲ避ケル為英独資本家間ノ提携ヲ画シツツアリ「アイムストロング」会社「シティー、バンク」ガ露國「ツェントロソユウズ」ト共同シ二千万磅ヲ以テ露都ノ港灣及大工場ヲ修理運轉シ「バルチック」經由ノ露國運送業ヲ独占スル計画ニ付テハ「クラッシン」ヲ通ジ協議中ナリシガ英独

ルニ付往電第一四九号^(註)独逸外務当局ノ觀察モ併セテ御査閲アリタシ
將又昨今英仏同盟賛否論世上ノ問題トナリ他面英國ハ「シレジア」問題等ニ関シ独逸ニ好意的態度ヲ示シ居ル為近時独逸國內ニ英國接近説追々昂マリツツアリ且對露關係ニ付日英兩國ト提携ヲ提唱スルモノ鮮カラズ現ニ「ワールブルグ」ノ如キモ最近本使ニ對シ独逸ハ對露通商上日英ト提携セザル可カラズト熱心ニ陳ベタリ
在歐米各大使へ転電セリ

註 六月十日日置大使發第一四九号ヲ省略セリ同電ハ露西亞時局ニ對スル独逸外務省露西亞部主任ノ觀察大要ヲ報告セルモノナリ

六七〇 六月二十二日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英露通商協定ニ基ク兩國ノ通商代表決定ニ付
報告ノ件

第七六四号 (六月二十四日接受)

英國外務省係官ノ言ニ依レハ今回當國政府ハ Krassin, Yishko Hergin ヲ以テ英露通商協定ニ依ル露國代表者ト認

資本団間ニ了解成リタルモノノ如ク其後英國側ハ「レーニン」ガ更ニ Naimé 及「ハンブルグ、アメリカン、ライオン」ト露都「プチロフ」及「バルチック」両工場ニ関シ交渉ニ入ルヲ默認シ最近ニ至リ「レーニン」ト「ハンブルク、アメリカン、ライオン」トノ間ニ露都港灣及船舶交通ニ関スル或協定纏ラントスルモノノ如ク米國一部資本家モ右ト關係ヲ有ス

波蘭、英、仏、独へ郵送セリ

六七二 七月六日 在瑞典國烟公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

對露事業ニ關スル英独間協調ノ趣意、其成功ノ可能性ノ有無等ニ付北田書記官ヨリ報告ノ件

第一九四号 (七月八日接受)

北田ヨリ左ノ通り

對露事業ニ関シ最近英独間ニ協調ノ傾向アルハ(一)英露ノ通商現金売買以外ニ發展セズ購買物品ノ種類數量モ生産高価格等ノ關係上意外ニ少ナク自由競争ト現金売買ノ行ハルル限り英國ハ到底独逸ニ對抗シ得ズ(二)勞農政府ガ今後トモ正貨取引以外ニ外國ヨリ經濟的援助ヲ得ズハ其ノ破滅及之ニ

伴フ無政府状態ノ出現ハ避クベカラザル勢ナルガ對露投資ハ非常ニ危險ナル外英國独力ニテハ企業ノ成效ニ必要ナル技術經驗勞力資金等ヲ十分ニ供スルコト困難ニシテ独逸ノ協力ヲ必要若クハ得策トスルコト愈々明白トナリタル為ニシテ英國ハ勞農政府ガ近東ニ對シ危險ナル企圖ヲ有スルヲ知ルニ拘ラズ目下之ヲ支持セントスルハ過激派ノ実力ハ目下頗ル薄弱ニシテ当分有效ナル攻撃ヲ為シ得ザルベキコト「レーニン」以下ガ經濟復興ノ為ニハ屢々有ラユル讓歩ヲ為サザルベカラザル地位ニ在ルコト及勞農政府ガ若シ自滅シ無政府状態トナラバ時局ハ益々困難複雜ヲ加フル等ノ為ニシテ英國ハ目下一方万一勞農政府ガ軍事行動ヲ起ス場合ニ備フル為ニ細心ニテハ日本ノ援助ヲ借り土耳其政策ヲ緩和シ中央歐羅巴ノ保安ヲ波羅の同盟波蘭羅馬尼等ニ依頼シ他方独逸ト共ニ事情ノ許ス範圍方法ニ於テ兎モ角露國ノ經濟復興ヲ試ミントスルモノナルモ「レーニン」ノ新政策ハ時機余リニ遅ク英独ノ援助モ実行困難ナルノミナラズ米國ノ参加ナキ限り右ハ露國ノ經濟破滅ヲ遲延セシムル效ハアルベキモ大勢ヲ挽回スルハ不能ナルベシト觀測セル者多シ波蘭、英、仏、独ヘ郵送セリ

第一〇四〇号

(九月二十三日接受)

英國政府ハ英露通商協定前文(a)ニ違反スル理由ヲ以テ今回左記要領ノ事実ヲ指摘シ勞農政府ニ對シ嚴重ナル抗議ヲ提出シ其行動ヲ停止スベキ確乎タル保障ヲ求メタル趣ナリ(一)事実上勞農政府ト同一体ヲ為セル第三「インターナショナル」ノ近東ニ於ケル反英過激運動(二)印度ニ於ケル革命黨ノ煽動(三)波斯ニ於ケル反英過激運動(四)「アングラ」政府ニ軍資金並ニ武器ヲ供給シ「アナトリア」國境ニ勞農軍ヲ集中シ之ガ為「アングラ」政府ト列國ノ間ノ平和克復ニ關スル折衝ヲ妨害セルコト(五)露「ア」条約ニヨリ「アフガニスタン」政府ニ對シ年額十萬磅補助ヲ為シ國境附近ニ彈藥製造所ヲ設ケ印度ノ革命運動ヲ幫助セルコト並ニ要所ニ露國領事館ヲ設置シテ過激運動ノ策源トナセルコト米ヘ転電在歐各大使ヘ郵報セリ

六七五 十月十二日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

近東、印度、波斯等ニ於ケル勞農政府ノ反英活動ニ關スル英國政府ノ抗議ニ對シ勞農政府
回答ノ件

六七三 八月三十日

在瑞典國烟公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏國實業家カイヨー氏對露通商ニ關シレヴァルニ來著ノ旨佐々木領事ヨリ報告ノ件

第二六〇号

(八月三十一日接受)

佐々木ヨリ左ノ通り

英独兩國カ露國問題ニ關シテ步調ヲ一ニシテ活躍セルニ反シ仏國ハ立チ後レノ形勢ナルニ焦慮シ「カイヨー」氏(有名ナル前大藏大臣ノ從兄弟)露國側ト折衝ノ為八月十八日当地ニ來着セリ

同人ト会同セル謀報者ノ言ニ依レハ同人ハ仏國實業家ノ代表者ナリト称スルモ同國政府ト「アンタント」アルモノノ如シ当分当地滞在ノ筈ナリト

註 佐々木靜吾領事ハ大正十年四月倫敦總領事館在勤及レヴァアル出張ヲ命ゼラレタリ

六七四 九月二十一日

在英國永井臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

近東、印度、波斯等ニ於ケル勞農政府ノ反英活動ニ關シ英國政府嚴重抗議ノ件

第一〇八一号

(十月十四日接受)

往電第一〇四〇号ニ關シ

今般勞農政府ハ英國政府ニ對シ回答ヲ為シタルガ右ニ依レバ勞農政府ハ英國政府抗議ニ係ル事実ヲ以テ反過激運動宣伝ノ為ニ捏造誇張セラレタル報道ニ基クモノト為シ印度波斯「トルキスタン」「アングラ」「アフガニスタン」等ニ於ケル反英運動トシテ英國政府ノ指摘シタル事実ヲ否認シ却テ英國政府ノ態度ガ旧來露國ニ對シ友好的ナラザルコトヲ述ベ

(一)之迄 Constantinople 英國當局ノ露國代表ヲ拘禁シ追放セルコト

(二)露國救済ニ關スル計画ヲ妨害セントスル仏國ノ態度ヲ支持セルコト

等ヲ列挙セリ

仏、伊、白、独、波蘭、土耳其、奧太利ヘ郵送

六七六 十月十二日

在波蘭國川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

勞農露國ノ内情ニ關スル上田書記官報告電報
ノ件

第七六号

(十月十六日接受)

在「リガ」上田ヨリ左ノ通り

露國內情報告

(一)当地着後露國ノ内情ニ関シ各方面ヨリ聞キ得タル所ヲ綜合スレバ基要領左ノ通り

現在露國內ハ生産ガ衰微ノ極ニ達シ交通機關破損ノ結果輸送力ニ乏シク正貨欠乏ニ近ヅキタル為外國投機商人ハ輸入ヲ差控ヘ加フルニ飢饉ノ為生活難ハ都市村落ヲ通ジテ甚ダシ

「ペトログラード」莫斯科ニ於テハ其後右投機商人ノ輸入ニ係ル物資市場ニ現レ多少ノ商店モ開ケタル為資力サヘアレバ之ヲ購ヒ得ルモ資力薄キ者ハ之ヲ購フニ由ナク殊ニ最近切符制度廢セラレタルヲ以テ所謂新「ブルジョア」ヲ除ク以外ノモノハ旧ニ倍シ苦痛ノ境遇ニ陥レリ其他ノ都市ニハ右物資市場ニ現レザルガ為資力アルモ之ヲ購フヲ得ズ故ヲ以テ農民及市民ハ政府ヲ怨ミ赤兵ノ大部分モ亦給養不足ノ為政府ニ対シ頗ル不平ナルモ政府ノ探偵警察組織有力ナルモノアルヲ以テ何人モ政府ニ反抗スルヲ得ズ然レドモ生活難ガ此上ニモ甚大トナルニ至ル場合ニハ如何ニ屈服心忍

耐力ニ富メル露西亞人ノ勘忍袋モ遂ニ破ルルニ至ラザルヲ保シ難シ故ニ政府ハ此危險ニ対シ政權維持ノ為一時ノ手段方法トシテ共產主義政策ヲ捨テテ販売ノ自由ヲ与ヘ所有權ヲ認メ外國人ニ利權ヲ提供スルコトトセシモ内外人ハ第一政府ノ真意ヲ疑ヒ第二現政府ハ如何ニ其政策ヲ變更スルモ建設能力ヲ欠キ平時ノ行政ニ慣レズシテ到底住民ニ満足ヲ与フルノ能力ナク第三政府ハ依然「テロル」ヲ存続シ第四「レーニン」ノ新政府ニ対シ政府部内ニ於テモ反對アル等ノ關係上容易ニ政府ヲ信用セザル為投機商人乃至新「ブルジョア」ヲ除キ一般ノ商工業者ハ未ダ事業ニ着手又ハ利權ヲ獲得スルヲ敢テセズシテ専ラ之ガ着手及獲得ノ準備ニ孜孜タルノミ

「ボルシェヴィック」政府ハ之迄露國伝来ノ財宝ヲ喰物トシ共產主義一点張ニ其ノ命脈ヲ維持シ来リシモ今ヤ之ヲ蕩尽シ加フルニ共產主義ノ經濟政策全然不成功ニ終リタルヲ以テ詮方無ク資本主義ヲ認ムルニ至リタルモ過去ニ於テ政權維持ノ為手段ヲ選バズシテ國民ヲ苦メタル關係上將來縱シ勞農政府ノ名存続スルト仮定スルモ現政府員ハ其職ニ留マルコトヲ得ザルベシ故ヲ以テ「レーニン」「トロツキー」

英露通商協定ガ当初ノ期待ニ反シ全然失敗ニ歸シタリトノホーン蔵相ノ演説ニ付報告ノ件

第一〇八八号

(十月十六日接受)

大蔵大臣 Sir Robert Horne (英露通商協定英國側代表者)ハ十二日「グラスゴウ」ニ於ケル失業問題演説中露國ノ現状ニ言及シ英露通商協定ガ当初ノ期待ニ反シ全然失敗ニ歸シタルコトヲ告ゲ勞農政府トノ通商ガ將來見込無キコトヲ述ベタルガ之ト同時ニ露國ニ於テ広大ナル鉱業權ヲ有スル英國 Russian Asiatic Consolidated 会社々長ガ最近事業開始協商ノ為莫斯科ニ赴キ目的ヲ達セズ空シク帰倫シタル後露國ノ現状ニ関シ勞農政府ガ(不明)ノ法律制度ヲ認メズ外國人並其臣民ニ対スル債務ハ勿論個人ノ財産權ヲモ承認セズ從ツテ一切ノ契約並債務ハ実行ノ余地ナキコトヲ述べ結局現下勞農政府トノ通商契約ハ全然不可能ナルコトヲ公表シタルガ為世ノ注意ヲ引キ十四日「タイムス」ハ論説中該協定ガ無用ノ長物タル以上何故ニ之ヲ廢止セザルカ当地勞農代表者ハ外交官ノ特權ヲ悪用シ当地社會黨新聞ヲ利用シテ英國政府ヲ非難シテ憚ラザルハ何ゾヤ露國民ヲ今日ノ慘狀ニ陥レタル勞農政府ハ一面第三「インタ

等ハ其將來ヲ完フスルヲ得ズシテ從ツテ現政府ハ一揆或ハ其他ノ方面ヨリ倒サルルニ非ザレバ政府部内ノ内訌其他ノ使噤ニテ自ラ倒ルルニ至ルベシ同政府ノ命脈ガ日ニ増シ次第ニ縮マリツツアルコトハ爭フベカラザル事實ナルモ其余命ノ尽クル時期ニ関シテハ諸説紛々タリ然レドモ同政府ガ飢餓民一揆其他ノ為他ヨリ倒サルル場合ニハ政府員ハ一同ニ政權ヲ失ヒ從ツテ其政府顛覆ノ時期案外ニ早クシテ大「ボグロム」實現スベキモ自ラ倒ルル場合ニハ閣員ガ拳ツテ政權ヲ棄テザル場合例ヘバ「レーニン」ガ職ヲ去リ「トロツキー」ガ之ニ代リ最後ニ「クラッシン」ガ「トロツキー」ニ代リテ其職ヲ去ル迄ニハ多大ノ時日ヲ要シ從ツテ大「ボグロム」無クシテ事済ムヤモ計リ難シ同政府倒レタル後ニ於ケル露國ノ政體ニ関シテハ立憲君主制及共和制等二説アレドモ露國ガ農業國タル關係上何レノ場合ニ於テモ其政府ハ社會主義ニ非ズシテ非社會主義ナル可シトノ見ニ一致セリ

在仏大使ヘ転電シ英独伊白瑞典ヘ郵送セリ

六七七

十月十四日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

一四 勞農露國ノ内情及涉外關係一件 六七七

「ナシヨナル」ヲシテ國際信用ノ基礎ヲ破壊セシメツツアルニ拘ラズ尚且英國政府ニ對シ「クレジット」ヲ求メムトスト述べ警告ヲ与ヘ居レリ

仏瑞典及波蘭ニ転電ス

六七八 十月十五日 在波蘭國川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

勞農露國ノ国内情勢ニ関スル露國避難者ノ談
話上田書記官ヨリ報告ノ件

第八二号

(十月十七日接受)

上田ヨリ第三号

最近露國ヨリ避難シ来リシ者ノ談話左ノ通り
露國本来ノ不作ハ早魃ノ為ノミニ非ズシテ植附ケ田圃ガ四五割減少シタルニ在リ之ガ減少ノ原因ハ政府ガ收穫物ノ販賣ヲ禁ジ一人ニ對シ一ケ年九布度ヲ限リトシテ收穫者ニ消費ヲ許シ其ノ他ノ收穫物ヲ徵發スルノ法律ヲ發布シタル為農民ハ自家用ダケノ收穫ヲモ縮小シ無益ニ余計ノ收穫ヲ為サザルコトニ決シ植附ケヲ縮小シタルニ依ル之ガ為政府ハ本年右法律ヲ廢シ更ニ穀物稅法ヲ發布シ農民ヲシテ一定量ノ收穫物ヲ納メシメ其ノ余ハ自由ニ使用販賣スルヲ許シタ

ルヲ以テ植附ケ段別ヲ増スコト有利トナリタルモ右法律ノ發布ハ植附ケ後ナリシヲ以テ本年度ノ收穫ハ依然トシテ自家用標準ナリ然ルニ政府ハ其ノ自家用ヲ標準トシテ收穫シタル農作物ニ對シ穀物稅ヲ課スルコトシタルヲ以テ農民ハ之ニ反對シテ納稅ヲ拒メリ斯ノ如ク新法律發布ノ為農民(脱)結果糧食不足シテ實際ニ擴張スル能ハザリシ為本年度ハ復又穀物不足ナルベシ本年ノ饑饉ハ實際其ノ声程大ナラザルト同時ニ赤兵ハ目下ノ処兎モ角モ本年度ノ收穫物ニテ糧食ノ給与ヲ受ケ居レルモ其ノ收穫物ニ限リアリテ来春迄ニハ食尽サルベキヲ以テ若シ其ノ場合ニ赤兵ニ對シ糧食ノ給与行ハレザルトキハ彼等ハ一揆ヲ起シ農民ハ之ニ加担スルニ至ルノ危險アリ饑饉民ノ救助行ハレザルコトハ政府ニ對シ然程ノ危險ナキモ赤兵ニ糧食ノ給与ヲ断ツコトハ政府ノ為ニハ最危險ニシテ此ノ危險ハ来年二三月ノ交ニ在ルベク而シテ政府ハ之ガ為或ハ倒ルルニ至ルヤモ保シ難シ然レドモ若シ政府ガ此ノ危險ヲ除去スルコトヲ得バ其ノ命脈ハ当分保チ得ベシ

農民ハ政府ノ強敵ナル処政府ノ雲行危クナル迄ハ積極的ニ之ニ反對セザルベシ而シテ同政府ノ治下ニアリテ投機ヲ行

ヒ資産家トナリタル所謂新「ブルジョア」階級ハ自己ノ富ヲ保持スル為其ノ地盤ノ出来タル曉ニハ自然積極的態度ヲ以テ政府ニ反對スルニ至ルベシ然リ乍ラ同階級ガ政府ヲ去ル迄ニハ歲月ヲ要ス彼等ハ小商人、職人、番頭、兵卒、他國ニ避難シ得ザリシ知識階級等ヨリ成リ今ヤ巨万ノ富ヲ有シ共產主義ニ大反對ナリ新「ブルジョア」ハ目下外國ニ避難セル旧「ブルジョア」ノ敵ナルモ兩者ハ早晚提携スルニ至ルベシ現ニ旧「ブルジョア」ニシテ既ニ新「ブルジョア」ヲ經テ(脱)再興セントシツアル者無シトセズ新「ブルジョア」對農民ノ關係ハ概シテ円滑ナルヲ以テ兩者ハ将来提携シテ現政府ニ對抗スルニ至ルベシ又農民對旧「ブルジョア」殊ニ旧地主關係ハ目下ノ処「ボルシェビズム」宣伝ノ為非ナルモ地方農民ヨリ土地ヲ沒收セル事ナク彼等ノ利益ノ為自己ノ所得權ヲ拋棄サヘ(脱)ナラズ喜ンデ一定ノ代価ヲ地主ニ納ムルナルベシ「ボルシェビック」政府ガ将来勃発ノ危險アル一揆ノ為倒サルル場合ニハ露國ニハ一時無政府時期実現シ群雄割拠シ鎮庄困難ナルベキモ新「ブルジョア」ガ勢力ヲ得テ之ヲ倒ス場合ニハ無政府時代ヲ見ズシテ済ムニ至ルベシ然リ乍ラ國民ガ現政府ヲ恨ミ

又同政府ガ猶太人ノ多数ヨリ成レル關係上何レノ場合ニ於テモ猶太人征服「ボグロム」ハ免レザルベシ「レーニン」政府ガ共產主義ヲ棄テテ資本主義ヲ採ルニ至リシハ一種ノ本音ト見ルハ大ナル誤ナリ「レーニン」ノ真意ハ共產主義政策ガ失敗ニ終リタルヲ以テ此ノ際資本家ヲシテ事業ヲ再興セシメ以テ共產主義実行ニ必要ナル基礎ヲ作り作戦準備成リタル曉ニ於テ再ビ資本ヲ破壊セントスルニアリ此ノ理想ハ到底實現シ得ベカラザルモノトスルモ要スルニ「レーニン」ハ頑強ナル「ファナチック」タルト同時ニ或ル意味ノ政治家ナルヲ以テ飽ク迄其ノ理想ノ實現ヲ期シ居レリ然レドモ多数ノ同主義者ハ其ノ實現ヲ疑ヒ(不明)露國ハ小地主タランコトヲ希望スル農民本位ノ國ナルヲ以テ土地所有權ヲ認メザル社会主義ノ國タルコトナカルベシ故ヲ以テ露國社会革命黨ハ所有權主義ヲ認ムルノ必要ヲ感ジ土地問題ニ對スル自己ノ「プログラム」ヲ改正シ本問題ハ目下其ノ討議ニ上リ居レリ

在仏大使ヘ転電シ在英獨伊白各大使及在瑞典公使ヘ郵送セリ

六七九 十月十七日 在瑞典國烟公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英國ノ對露策ニ關スルラデック談ニ瓶書記官

ヨリ報告ノ件

第三一一号

(十月十八日接受)

二瓶ヨリ左ノ通り

對露政策ニ關スル「ラデック」談ナリトテ露紙ノ伝フル所
左ノ通り

露國ノ復活ハ亜細亞ニ於ケル英國ノ利益ヲ脅スモノナルヲ
以テ白赤何レヲ問ハズ露國ガ速ニ国力ヲ回復スルコトハ英
國ノ好マザル所ナリ反過激派ガ政權ヲ握ルトキハ過激派ト
異ナリ容易ニ米仏等ト接近スルニ至ルベキヲ以テ英國ハ決
シテ彼等ヲ援助セザルベク然リトテ過激派ヲ援助シ露國ノ
回復ヲ計ルコトモ亦其ノ欲セザル所ナリ英國ハ露國ガ微弱
ナル原始的農業國トシテ存続スルコトヲ希望ス

註 二瓶兵二八大正九年一月公使館二等書記官ニ任セラレ瑞典國

在勤及芬蘭國出張ヲ命セラレタリ

六八〇 十月十九日

在波蘭國川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

アルモ兩者共ニ同政府ハ「ブルジョア」的ナルベシトセリ
露國將來ノ主腦者ガ小地主タルヲ欲スル農民ナルベシトハ
一般ノ說ナルモ彼等ノ精神トナリテ之ヲ支配スベキモノガ
何者ナリヤノ問ニ對シテハ露人士間ニ第一、新「ブルジョ
ア」第二、旧「ブルジョア」第三、「コルペラアトル」(産
業組合委員)ナルベシトノ三說アリ第一ニ依レバ新「ブル
ジョア」ハ投機ヲ營ミテ大資本家トナリタルヲ以テ旧「ブ
ルジョア」ハ之ニ一步ヲ譲ラザルヲ得ザルベシト稱スルモ
第二說ニ依レバ旧「ブルジョア」ハ經濟技能ヲ有シ居ルニ
反シ新「ブルジョア」ハ之ヲ有セザルヲ以テ旧「ブルジョ
ア」ノ力ニ頼ルニアラザレバ露國ノ國家殊ニ經濟的復興ハ
不可能ナルベシトセリ第三說ニ依レバ露國ノ中堅ハ農民ニ
シテ「コルペラアトル」ハ歷史上經濟上彼等ノ先導者タリ
シヲ以テ將來モ亦農民ヲ指導スルノ地位ヲ占ムベシトセリ
要スルニ前記三者ハ現政府ノ敵ナルト同時ニ同政府將來ノ
大敵タル農民ヲ左右スルノ資格ヲ有スルモノニシテ殊ニ外
國ニ避難セル旧「ブルジョア」ガ自己ノ將來ヲ確信シテ農
民ヲ指導セントスル目的ヲ以テ大ニ準備ヲ為シツツアルコ
トハ事實ニシテ現ニ露國ノ將來ヲ掌中ニ握レル独逸ガ露國

リガ地方内外諸人士ノ意見ニ依レバ露國勞農
政府ハ早晚倒ルベシトノコトナル旨上田ヨリ

報告ノ件

第八六号

(十月二十一日接受)

上田ヨリ第五号

露國ノ將來如何ニ關シ是迄内外諸人士ニ面会シテ聴キ得タ
ル所ヲ綜合スレバ左ノ通り
彼等ハ異口同音ニ「ボルシェビック」政權ハ一時ノ現象ニ
シテ早晚消滅スベク同政府倒レタル場合ニハ猶太人ノ征伐
實現サレ右党對左党、社会党對非社会党ノ政争勃興シ甲地
方ハ乙地方ト行政ヲ異ニシテ所謂無政府時代トナルベシト
稱フルモ其繼續期間ニ關シテハ同政府瓦解時期ト同様其見
解ニ二分レ甲ハ其期間ガ数年ニ亘ルベシトスルニ反シ乙ハ
僅々一二ヶ月ニ過ギズトスルノミナラズ或人ノ如キハ現政
府ガ一日ニシテ其政權ヲ得タル如ク又一日ニシテ之ヲ失フ
ベケレバ無政府即チ「アナルヒ」ノ期間ハ二三日ニ過ギザ
ルベシト稱ヘ居レリ然レドモ一般ニハ「ダクタートル」現
ハレ大露國ガ次第二統一スル迄ニハ時日ヲ要スベシトノ意
見ニ一致セリ將來ノ政體ニ關シテハ共和及立憲君主ノ兩說

ヨリ逃レ來リタル旧「ブルジョア」ヲ優遇シ之ニ好感ヲ抱
カシムルヲ旨トセルモ亦畢竟之ガ為ナルベシト察セラル
在仏大使ニ轉電シ在英伊白大使及瑞典公使ニ郵送セリ

六八一 十月二十五日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英露通商協定ノ成果ニ關シ英國議會ニ於テ質

疑応答ノ件

第一一一五号

(十月二十七日接受)

英露通商問題ニ關シ「英國通商代表者ハ露國ヲ引揚グベキ
ヤ」トノ議員ノ質問ニ對シ次官ハ之ヲ否認シタルガ更ニ
「勞農政府ガ通商協定ニ違反シ而モ右協定ガ通商上何等ノ
価値ナキ事情ニ顧ミ政府ハ該協定ヲ廢止スル意図アリヤ」
トノ質問ニ對シ首相ハ尚相當ノ取引アル旨ヲ答ヘ協定違反
ノ問題ニ關シテハ尚取調中ニ屬スル旨ヲ答ヘタリ尚去ル四
月協定成立以來九月ニ至ル對露貿易額トシテ政府ハ左記ノ
数字ヲ議會ニ報告セリ
露國ヨリ輸入額十六万九千五百二十七磅露國ヘ輸出額七十
五万九千七百三十五磅外國並植民地商品ノ通過輸出額八十
万六千九百四十四磅

仏波へ転電セリ

六八二 十一月二日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

露國勞農政府ノ正式承認ヲ条件トシテ旧債務
支払ヲ承諾セントノ申出ニ関スル仏國新聞論
調報告ノ件

第一五六八号 (十一月四日接受)

十月二十八日附ニテ在倫敦過激派政府代表者カ英國外務省
ニ提出シタル覚書ニ対スル仏國新聞ノ論調ハ共產党若クハ
社会党左派ニ属スル新聞ガ露西亜トノ通商開始ヲ主張セル
行懸上彼ヲ歓迎セル外一般新聞紙ハ冷淡ナル態度ヲ以テ之
ヲ批評セリ

「デバー」曰ク過激派政府ハ其ノ正式ノ政府承認ヲ条件ト
シテ一九一四年以前ノ露西亜債務ノ支払ヲ承諾スト云フモ
開戦以來ノ債務ハ如何ニセントスルヤ又過激派ノ破壊手段
ハ露西亜ノ生産機關ヲ攪亂シ尽セリ彼等ハ如何ニシテ債務

支払ノ法ヲ見出サントスルヤ今日莫斯科政府ノ申込ニ応ズ
ルハ偶々彼等ノ術策ニ陥ルモノナリ云々

「タン」曰ク昨年十一月二十五日附ヲ以テ仏國政府ガ英國
政府ニ送リタル覚書中ニ旧債務ノ承認ハ露西亜トノ通商開
始ノ前提条件ナリト明言シアリ右ノ覚書ハ當時莫斯科政府
ヨリ資本主義者ノ言ヒ草ナリト嘲ケラレタルモ今日ニ至リ
莫斯科政府ハ自ラ債權ノ承諾ヲ申出タリ同政府ハ露國民ニ
旧債務弁済ノ義務ナキコトヲ確信スルモノナルモ単ニ *cession*
トシテ便宜之ヲ承認スルニ止マル旨ヲ声明セリ莫
斯科政府ニシテ真ニ外債支払ノ意思アラバ先ヅ其ノ支払ノ
担保タル可キ財源ヲ提供スルコトヲ要ス然レドモ仏國政府
ハ莫斯科政府正式承認問題ヲ以テ緩漫ナル財政上ノ協定ナ
リト思料セズ莫斯科政府ガ総テノ外債ヲ支払フコトヲ約シ
更ニ民意代表ノ制度ヲ樹立スルニ至ラバ始メテ真面目ニ本
問題ヲ考量スルコトアル可シ云々

事項一五 日本国及勞農露國間国交回復交渉開始問題關係一件

六八三 五月十九日 在瑞典國畑公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

芬蘭出張ノ際ノ勞農政府代表トノ接触ニ関シ
請訓ノ件

第一五〇号 (五月二十日接受)

本使今般「フィンランド」出張ニ際シ同国外交団「リスト」
中ニアル勞農政府全權トハ交通ヲ避ケ可然ヤ *Helsingfors*
Hôtel Sociélé Husel 宛何分ノ義御電訓ヲ請フ

六八四 五月二十五日 内田外務大臣ヨリ
在瑞典國畑公使(芬蘭出張中) 宛
(電報)

芬蘭ニ於ケル勞農政府代表トノ接触振ニ関シ
回訓ノ件

第五五号

貴電第一五〇号ニ関シ

公式ノ交通ヲ避ケラルル方然ルベク若シ先方ヨリ希望セバ
非公式ニ先方ノ話ヲ聴取セラレ差支ナシ尤モ我方ノ態度ヲ

一五 日本国及勞農露國間国交回復交渉開始問題關係一件

「コミット」セザル様御注意アリタシ

六八五 五月二十六日 在波蘭國川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

勞農政府外務次官カラハン駐波蘭公使トシテ
來任スベキ趣ニ付同人ヨリ会见ヲ求メ來レル
場合ノ措置ニ関スル件

第一四号

(五月二十八日接受)

五月二十四日本使当国外務大臣ヲ公式訪問シ種々談話ヲ交
ヘ会々對露問題ニ及ヒタルニ付本使ハ当國ニ對スル露國代
表者ニ関シ先般波蘭政府ハ「カラハン」ノ派遣ヲ拒否シタ
ル趣聞及ヒタルカ(往電第五号參照)其後ノ成行如何ト尋
ネタル処同大臣ハ実ハ波蘭政府ニ於テモ右ニ関シ種々考慮
ノ結果「カラハン」ノ人物経歴ニ徴シ強ヒテ之ヲ拒否スヘ
キモノトモ認メラレザルニ付其後之ヲ受諾スルニ決シ已ニ
其旨莫斯科政府ニ回答セリト答ヘ尚「カラハン」ハ多分此
処二三週間ノ内ニ当地ニ到着スヘク其上通商問題等モ漸次

六八三 六八四 六八五